

2021年度事業報告書

(2021年4月1日から2022年3月31日まで)

学校法人 大阪音楽大学

I 法人の概要

【1】 建学の精神

世界音楽並ニ音楽ニ関連セル諸般ノ芸術ハ之ノ学校ニヨッテ統一サレ
新音楽新歌劇ノ発生地タランコトヲ祈願スルモノナリ

【2】 学校法人の主な沿革

1915年（大正 4年）	創立者永井幸次により、大阪市南区塩町（現、中央区南船場）に大阪音楽学校を開校
1926年（大正15年）	大阪市東区味原町（現、天王寺区味原本町）に移転
1948年（昭和23年）	大阪音楽高等学校開校
1951年（昭和26年）	大阪音楽短期大学開学
1954年（昭和29年）	豊能郡庄内町野田（現、豊中市庄内幸町）の現校地に移転
1957年（昭和32年）	附属児童音楽学園開設
1958年（昭和33年）	大阪音楽大学開学 大阪音楽高等学校を附属音楽高等学校に改称
1959年（昭和34年）	大阪音楽短期大学を大阪音楽大学短期大学部に改称
1966年（昭和41年）	音楽文化研究所開設（のちに音楽研究所に改組） 附属児童音楽学園を附属音楽学園に改称
1967年（昭和42年）	大学と短期大学部に各音楽専攻科設置 附属音楽幼稚園開設
1968年（昭和43年）	大学院音楽研究科開設 附属楽器博物館開設
1980年（昭和55年）	K号館竣工（音楽文化研究所、附属楽器博物館を移転）
1981年（昭和56年）	附属音楽高等学校閉校
1989年（平成元年）	ザ・カレッジ・オペラハウス開館
2000年（平成12年）	P号館（ミレニアムホール）竣工
2002年（平成14年）	音楽博物館開設（附属楽器博物館、音楽研究所などを統合して改組）
2003年（平成15年）	附属音楽院を開設（附属音楽学園を改組）
2004年（平成16年）	短期大学部を改組、新たにジャズ・ポピュラー専攻開設
2009年（平成21年）	短期大学部を改組、音楽科の下に11コースを置く
2011年（平成23年）	短大専攻科を音楽専攻の1専攻に改組

2012年（平成24年）	大学音楽学部作曲学科・声楽学科・器楽学科の3学科を廃止し、音楽学科1学科を新設、ジャズ・クラシックギター・電子オルガン専攻を開設、短期大学部音楽科にクラシックギター・ダンスパフォーマンスコースを開設
2016年（平成28年）	大学音楽学部音楽学科にミュージッククリエーション専攻・ミュージックコミュニケーション専攻を開設 100周年記念館（新K号館）竣工
2017年（平成29年）	音楽博物館を大阪音楽大学メディアセンター楽器資料館と改称 附属音楽院さくら夙川校開設
2018年（平成30年）	大学音楽学部音楽学科クラシックギター専攻をギター・マンドリン専攻に改称 短期大学部音楽科クラシックギター・コースをギター・マンドリン・コースに改称
2020年（令和2年）	短期大学部音楽科作曲コースと電子オルガン・コースを統合し、作曲デザイン・コースを開設 短期大学部音楽科ポピュラー・コースを改組し、ヴォーカルパフォーマンス・コース、ポピュラーインストゥルメント・コースを開設 附属音楽院さくら夙川校閉校
2021年（令和3年）	大阪音楽大学音楽学部音楽学科にヴォーカルパフォーマンス専攻、ポピュラーインストゥルメント専攻を開設
2022年（令和4年）	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部が公益財団法人日本高等教育評価機構による大学・短期大学機関別認証評価受審の結果、「大学評価基準・短期大学評価基準に適合している」と認定される

【3】 役員・教職員の概要

理 事

理事定数10～15人 理事の現員数10人

役職名	氏名	執務	理事就任年月日	主な現職・前職等
理事長	中村 孝義	常時執務	2001年9月7日	大阪音楽大学元学長・大阪音楽大学名誉教授
副理事長	本田 耕一	常時執務	2009年4月1日	大阪音楽大学教授
常任理事	岡野 幸義	非常勤	2012年10月1日	公益財団法人 太平洋人材交流センター 理事長
常任理事	十川 輝明	常時執務	2010年4月1日	(住友生命社会福祉事業団元常務理事)
常任理事	福井 慎吾	常時執務	2016年5月29日	(大阪音楽大学前事務局長)
理事	北野 徹*	非常勤	2010年6月30日	大阪音楽大学同窓会<幸楽会>会長
理事	角 和夫*	非常勤	2019年12月1日	阪急阪神ホールディングス株式会社 代表取締役会長 グループCEO
理事	田中 勉*	常時執務	2014年4月1日	大阪音楽大学教授
理事	永井 譲*	非常勤	1982年6月29日	大阪音楽大学元学長・大阪音楽大学名誉教授
理事	本山 秀毅*	常時執務	2018年4月1日	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部学長

監 事

監事定数 2人

監事の現員数2人

氏名	執務	就任(退任)年月日	主な現職・前職等
水瀧 征矢雄*	非常勤	2018年6月30日	(学校法人大阪音楽大学元常任理事・大阪音楽大学元教授)
青山 成夫*	非常勤	2021年7月1日	((公財)住友生命健康財団元常務理事)
川島 仁司*	非常勤	(2021年6月30日辞任)	(住友生命保険相互会社元常務取締役)

評議員

評議員定数 21～31人

評議員の現員数21人

氏名	選任条項	就任(退任)年月日	主な現職・前職等
荒田 祐子	法人職員	2014年6月30日	大阪音楽大学教授
石橋 栄実	法人職員	2020年5月29日	大阪音楽大学教授、付属音楽院長
井上 建夫	学識経験者	2018年6月30日	公益財団法人守山市文化体育振興事業団 副理事長
岡原 慎也	法人職員	2014年5月30日	大阪音楽大学教授
小畑 有子	法人職員	2010年6月30日	大阪音楽大学付属音楽幼稚園園長
金田 忠行	学識経験者	2014年6月30日	サンスター株式会社 相談役
北野 徹	卒業者	2010年6月30日	大阪音楽大学同窓会<幸楽会>会長
高 昌帥	法人職員	2021年9月20日	大阪音楽大学短期大学部副学長
児玉 祐子	卒業者	2021年4月1日	公益財団法人関西二期会理事
小林 義和	卒業者	2018年6月30日	尼崎市立尼崎双星高等学校教頭
駒井 肇	法人職員	2020年5月31日	大阪音楽大学短期大学部教授
崎山 和英	法人職員	2014年4月1日	大阪音楽大学事務局次長
芝 道雄	学識経験者	2018年6月30日	ダイキン工業株式会社コーポレートコミュニケーション室シニアスキルスペシャリスト
下村 義和	学識経験者	2020年1月30日	元豊中市消防局次長 豊中市消防局再任用職員
田中 勉	法人職員	2010年6月25日	大阪音楽大学教授
田辺 恭久	学識経験者	2020年4月1日	住友生命保険相互会社顧問
西山 健次	卒業者	2014年12月22日	大阪府立夕陽丘高等学校非常勤講師(音楽科)
福榮 宏之	法人職員	(2021年9月19日退任)	大阪音楽大学短期大学部教授
松尾 徹	学識経験者	2013年12月1日	非破壊検査株式会社特別顧問
松原 千代繁	学識経験者	2014年6月30日	公益財団法人新日本フィルハーモニー交響楽団 相談役
水谷 雅男	卒業者	2018年6月30日	大阪音楽大学同窓会<幸楽会>副会長
丸谷 明夫	学識経験者	(2021年12月7日退任)	一般社団法人全日本吹奏楽連盟理事長
森本 徹	法人職員	2014年6月1日	大阪音楽大学事務局次長

役員賠償責任保険契約の概要

- ・被保険者：役員（理事・監事）及び評議員
- ・補償内容：役員及び評議員等（被保険者）の行為に起因して、被保険者に対して損害賠償請求がなされた場合に、被保険者が負担する法律上の賠償金等を補償する。
- ・保険期間：1年間

責任限定契約の内容の概要

- ・私立学校法第44条の5が準用する一般社団・財団法人法第115条に定める及び本法人寄附行為に基づき、理事5人*及び監事2人*との間で、私立学校法第44条の2第1項の最低責任限度額をもって責任の上限とする旨の責任限定契約を締結している。

学長及び幼稚園長

大阪音楽大学学長	本山 秀毅
大阪音楽大学短期大学部学長	本山 秀毅
大阪音楽大学付属音楽幼稚園長	小畑 有子

【4】 設置する学校・学部・学科等 及び 入学定員、学生数の状況（在籍数は2021年5月1日現在）

●大阪音楽大学 音楽学部

学 科	入学定員	入学者数	3年次編入 入学定員	収容定員	在籍数	収容定員充足率
音楽学科	210人	187人	30人	900人	790人	0.88
計	210人	187人	30人	900人	790人	0.88

●大阪音楽大学 音楽専攻科

専 攻	入学定員	入学者数	在籍数	定員充足率
作曲専攻	1人	0人	0人	0.00
声楽専攻	5人	6人	8人	1.60
器楽専攻	14人	11人	14人	1.00
計	20人	17人	22人	1.10

●大阪音楽大学 大学院

研 究 科	専攻	入学定員	入学者数	収容定員	在籍数	収容定員充足率
音楽研究科	作曲専攻	2人	0人	4人	2人	0.50
	声楽専攻	4人	7人	8人	12人	1.50
	器楽専攻	7人	14人	14人	23人	1.64
計		13人	21人	26人	37人	1.42

●大阪音楽大学短期大学部

学 科	入学定員	入学者数	収容定員	在籍数	収容定員充足率
音楽科	100人	92人	200人	216人	1.08
計	100人	92人	200人	216人	1.08

●大阪音楽大学短期大学部 専攻科

専 攻	入学定員	入学者数	在籍数	定員充足率
音楽専攻	15人	8人	17人	1.13

●大阪音楽大学附属音楽幼稚園

学 年	定 員	在園児数
3歳児3学級	105人	93人
4歳児3学級	105人	100人
5歳児3学級	105人	85人
計	315人	278人

Ⅱ 事業の概要

本法人は、教育の質と特色を充実させ社会や時代が求める音楽人を輩出していくために「中期事業計画（2021年度～2025年度）」を策定し、財政の健全化、人材の育成、ガバナンス体制の強化を進めている。

この中期事業計画における重点推進項目は以下のとおりである。

①新たな成長戦略による収入確保

- ・新時代のニーズに対応した事業運営、ニューノーマル時代の学生募集活動

②事業の抜本的見直しによる支出削減

- ・慣例やしがらみにとらわれず事業の在り方を見直す

③学修者本位の教育への転換

- ・時代に対応した教育体系・手法の確立、教育の質・学生サービスの向上

④次世代を担う人材育成

- ・本学の発展に寄与する将来を担う教員・職員の育成

⑤財務体質の健全化

- ・教育活動資金収支・資産運用・資金繰りの適正化

⑥ガバナンス強化と社会に開かれた大学

- ・各機能の実質・適正化、危機管理の強化計画、外部連携強化

上記の重点推進項目を踏まえ、それぞれの領域において必要な目標を設定し、事業を計画、展開しその達成に努めている。

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が収まらない中、本学の教育の特性上、対面による授業なしには大きな効果を上げることはできないことを重視し、感染対策の更なる意識向上、感染判明時の迅速な組織的対応、感染拡大防止のための仕組み作り等を丁寧に行い、学事行事は概ね実施できた。

また、2022年度に大学音楽学部開設するミュージックビジネス専攻の教育体制および教育内容の整備、学生募集のための広報活動、施設準備など関連する活動も多く展開した。

大学、短大においては、7年ごとに義務付けられている認証評価機関による機関別認証評価を受審し、いずれも評価基準に適合しているとの認定を得た。本学では、今回の受審を通して明らかとなった課題などを克服し、今後一層の教育水準の向上を図っていく。

以下 内は事業名を示す。

A 教育・研究事業

【1】大学院・大学・音楽専攻科・短大・短大専攻科

<大学院>

2021年度は、音楽学研究室2人、声楽研究室12人、ピアノ研究室13人、管弦打研究室10人の計37人が在籍し、各研究室による修士演奏、修士論文の審査と口述試験の結果、音楽学2人、声楽5人、ピアノ5人、管弦打2人の計14人が修了した。11月24日に大学院定期演奏会をザ・カレッジ・オペラハウスにおいて開催し、学生の研究成果である多彩なプログラムによって、本学大学院の質の高さを内外に示すことができた。2022年度入学者選抜については、前期・後期日程を合わせて15人が合格した。

<大学>

音楽学部音楽学科に790人が在籍し、167人が（うち5人は前期に）卒業した。卒業生の中から、最優秀賞5人、優秀賞11人、音楽・社会活動賞2人を表彰した。また、ヴォーカルパフォーマンス専攻及びポピュラーインストゥルメント専攻を新たに開設した。

前期は約90パーセントの授業が対面授業で開始したが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、5月から対面授業の約50パーセントが遠隔又は遠隔と対面の併用による授業に移行した。感染状況を注視しながら感染防止対策を講じて徐々に対面授業に移行し、後期は約70パーセントの授業が対面によって実施された。

<大学専攻科>

2021年度は音楽専攻科には声楽専攻8人、器楽専攻14人の計22人（うち1人は休学）が在籍し、21人が修了した。授業「音楽実践演習」の一環として、学生自らが企画・演出・出演する「オータムコンサート」をLICはびきの（10月16日）、西宮市フレンテホール（11月13日）の2会場で実施し、社会における実践的活動を体験した。前年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け休学者が多数となり、在学者数は僅か5人のみとなったため、出演者数がかなり少ない公演となってしまったが、2021年度は在学者数が21人と前年度より大幅に増えたため、多数の出演者による公演となり、公演内容もより多彩なものとなった。

<短大>

音楽科には216人が在籍し、96人が（うち2人は前期に）卒業した。卒業生の中から、最優秀賞5人、優秀賞5人を表彰した。前期は約90パーセントの授業が対面授業で開始したが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、5月から対面授業の約50パーセントが遠隔又は遠隔と対面の併用による授業に移行した。感染状況を注視しながら感染防止対策を講じて徐々に対面授業に移行し、後期は約70パーセントの授業が対面によって実施された。

<短大専攻科>

短大専攻科では2020年度には新型コロナウイルス感染症拡大を懸念し9人もの休学者があったが、2021年度には全員が復学した。短大専攻科に在籍する学生全員が自ら企画・出演する「コンサート・プロデュース」が7月にミレニアムホールで開催された。感染拡大防止のためホールの使用はもとより立案・準備・練習にも様々な制約と困難を伴う中での開催だったが、例年と遜色ない完成度のコンサートとなり、学生にとって貴重な経験となった。

<キャリア関連>

入学式後に保護者対象のキャリア支援に関するガイダンスを実施し進路サポートの内容や、近年の進路・就職実績の説明を行った。大学3年次生、短大1年次生を対象にYouTube配信での進路ガイダンスを実施。卒業後の進路について理解を深め、具体的な行動に移すための契機として取り組んだ。また、企業就職志望者対象にMIRAIセミ

ナーを 15 回実施(番外編 5 回含む)、自己分析・エントリーシート対策や SPI 性格検査等を提供した。(参加延べ 146 人)。

これらに加えて、進路に係る各種採用説明会を実施した。主に音楽教室(ヤマハ、カワイ、三木楽器等)の講師採用説明会や公立学校教員採用(大阪府、大阪市、堺市、豊能地区、神戸市)説明会を実施した。他にも多様な進路選択に対応するために、自衛隊音楽隊(陸上、航空)や合同会社ユー・エス・ジェイ、河合楽器製作所等の採用説明会を実施した。また、卒業生による懇談会 MIRAI カフェの中で多様な進路を在学生に提示することができた。

こうした説明会等の他に、講座やセミナーを多数開催した。教員採用試験対策として筆記試験及び模擬面接なども行った。音楽教室講師を目指す学生には、ヤマハ音楽指導及び演奏グレード 5 級取得準備講座、音楽教室起業セミナーを開催した。また、全保護者を対象として、本学のキャリア支援の仕組みに関するガイダンスの動画配信と、社会で活躍する卒業生とのオンライン懇談会を実施した。

キャリア支援センターにおける学生支援の柱の一つである定期学生面談を大学 3 年次生(6 月～7 月)・短大 1 年次生(10～11 月)を対象にリモート面談も交え実施した。この学生面談・相談は定期以外にも年間を通じ随時実施している。キャリア教育の一環であるインターンシップは、公共ホールや楽器店、音楽団体などの協力を得て年 1 回春期に実施し、マナー等の事前指導を行った上で 9 の企業・団体に延べ 25 人を派遣した。その他、一般企業へのインターンシップ希望者には、大学コンソーシアム大阪、兵庫県経営者協会と提携を結び、希望学生への受付、申請を行った。

CI 活動の再点検とそれに基づく教育改革

●要旨

2015 年度までに取り組んだ「CI (カレッジ・アイデンティティ) 活動」を再認識し、教育、研究の場に生かすことを 2018 年度から 4 年間の方針とし、学長のリーダーシップにより「CI 活動」での取り組み内容をベースにして教育改革を推進した。

●成果及び達成度

本格実施 3 年目となった教員評価制度は、各教員の教育活動及び教育能力等の自己評価を第三者が点検確認した後、面談によって目標水準を示すものであり、本学はこの制度を通じて教育力の向上と人材育成に取り組んでいる。また多様な学生を受け入れることにより生じる新たな課題について、リメディアル教育のシステムや学生のメンタル面をケアする体制の充実により積極的な取り組みがなされている。卒業生の進路について一般企業への就職率が上がっていることを受けて、キャリア教育の重要性が問われている。キャリア事務部門と中心としたサポート体制に加えて、音楽専門教育との相乗効果を図りながら展開され成果を上げている。2022 年度開設予定のミュージックビジネス専攻について、従来の音楽大学の既成概念を打ち破る将来を見据えた内容を包摂するものと位置づけ成功を期する。

●今後の展望

大学としての具体的な方針は以下のとおりとし、引き続き教育改革を推進する。

・目指す方向性

本学が継承してきた、音楽に対する見識や技術を高めること、世の中に認められる優秀な学生を育成することは堅固に維持しつつ、多様な学生に対応する基礎力の向上、学習支援の充実に努める。

・存在意義

社会に対する存在意義として「ちから強い音楽人」を育成、輩出することを掲げる。高い音楽性や技術はもとより、音楽に対峙する中で得られる忍耐力、集中力、創造力、協調性などを持つ人材を育成することに努める。

・在り方

新しく立ち上げられた専攻、続いて設置構想が実現する専攻が、伝統的な音楽教育から得られる成果と対峙し刺

激しあうことにより、ほかには見ることでできない独自の成果を創り出すことが可能となる。この向性が本学の将来の在り方を示すことになる。

ミュージックコミュニケーション専攻 年間イベント

●要旨

前年度はコロナ禍により中止となった「阪急宝塚線ミュージック駅伝 MOT!」の中心的な演奏会である「ドリームコーラスコンサート」やフリンジイベントである「猪名川 Sunset Show」等を開催した。また、豊中市文化芸術センターにおける有料コンサートとして「ANDARTー音楽と絵画・ライブペインティングのタペー」「Singer/Song/Writer」の2公演を実施した。その他、「音の三井寺ーうたの邂逅ー 天台声明とイタリア古典歌曲」に参加する他、にアートエリア B1 のイベントを継続的に担当した。

●成果及び達成度

専攻として、11月19日の「邦楽演奏会」、3月12日～14日のミュージカル公演「ヒビ伝説」の舞台マネジメントに携わった。また、国家資格である舞台機構調整技能士2級に4人、3級に14人が合格した。

●今後の展望

2020年度に実施したカリキュラム変更による「プロジェクトデザイン」「舞台マネジメント」の二つの柱が専攻全体の活性化につながることが期待される。また、学生为国家資格の取得を視野に入れ、各イベントにおいて舞台マネジメントの実体験をさらに充実させる予定である。

●助成金等

豊中市グリーンスポーツセンター等における音楽イベントが「オープンマイクパーク@庄内」として豊中市魅力アップ助成金の対象事業となった。

ポピュラー・コース特別講義

●要旨

シンガーソングライター、作曲家、作詞家、編曲家、音楽プロデューサーである AILI 氏による特別講義を2日間・合計4コマ実施し、主として以下のテーマや質問事項に沿った詳しい解説があった。

- | | |
|----------------------|-------------------|
| ・プロデューサーの役割 | ・自分のプロモーション |
| ・キャリアを切り開くための基本的な考え方 | ・プレーヤーとクリエイターの関係性 |
| ・ロジックシンセの音作り | ・音源の選び方 |
| ・ヴォーカルのレコーディング | |

●成果及び達成度

音楽家として幅広い知識を持つことの重要性が説かれ、学生の今後の創作、楽曲制作への刺激となった。

●今後の展望

学生が音楽シーンの最前線で活躍するミュージシャンからの指導を継続的に受けることにより、楽曲のクオリティを大きく向上させることが期待される。

eラーニングの導入

●要旨

前年度に続き、総合型選抜及び学校推薦型選抜の合格者を対象に入学前教育として英語のeラーニングを実施した。大学、短大のディプロマ・ポリシーに掲げられた外国語の運用能力に基づき、異文化や文化の多様性を理解する姿勢を身につけることを入学後の目標として、全4コースの中から入学予定者が一つを選択することとしている。本学が受講費の半額を負担し、外国語の専任・非常勤教員が学習状況を随時チェックした。

●成果及び達成度

入学前教育の趣旨を再確認し、「早期に合格が決定した後の学習意欲を継続する」観点から、習熟度に関わらず入学予定者がこの e ラーニングへ参加することに重点を置いたが、各コースの最終単元に到達する者は全受講者の 1 割を下回る結果となった。

●今後の展望

英語の e ラーニングは教材の全てではなく、高校生活の都合等により途中段階までの学習を認める等、弾力的な活用について今後検討する。また、入学前教育として講座の受講やテストの受験が求められているソルフェージュや楽典等に関して、大学のシステムを活用した e ラーニングへの転換の可能性について意見交換を行う。

作曲デザイン・コース「プリプロ・スタディ」

●要旨

短大作曲デザイン・コースの 2 年次生が、教員や助手の支援を受けながら就職活動や楽曲応募へ向けた制作に取り組むための課外教育活動として開始した。授業課題の対応は対象外とし、あくまで将来へ向けた活動における楽曲アイデアの昇華や、制作中の作品のブラッシュアップ、レコーディングサポート、音楽活動へのカウンセリングなどに取り組むことを想定して 2021 年度より事業化した。募集情報が増える時期と事業自体の繁忙期を想定して、日数と内容を制限したことにより、2021 年度における実際の稼働コマ数は、当初想定 of 2 割程度に止まった。

●成果及び達成度

稼働コマ数は少なかったものの、作曲デザイン・コースの学生にとって、自分の作品を世に出し、採用されるまでのプロセスを体験する貴重な学びの場となった。また、本事業は学生への実技の現場指導だけでなく、作品を応募する先の情報も確保・提供することとした。さらに、企業との関係をより強固にすることで、コースから学生の楽曲を直接売り込める仕組みを構築した。このことにより、2 人の学生が作曲事務所と契約し活動を開始した。

●今後の展望

企業への開拓と募集情報の案件数を増やす事で、学生への需要が生まれ稼働コマ数が増える（2022 年度より対象学年・内容を拡大）→ 学生作品の質が上がる → コースと企業との連携 → 作品の採択が増える・就職活動時の採用率が上がるという、好循環が実現することが期待される。また、作曲デザイン・コースにおける 3 つのクラスに共通する取り組みとして、コンペやキャリア形成に活発に利用されることが期待される。

プロダクション「大音ラボ」の運営

●要旨

学生の実践的な学びや経験の場として、また大学と社会をつなぐものとして、ミュージッククリエーション専攻が主体となり、渡邊崇教員を中心にプロダクションを運営し、助手を企画推進の中核として事業展開をした。この事業は、学生が将来音楽で働くための実践的な活動の場を提供することを主目的とし、働くことの一面を経験することで学生自身がキャリア形成への関心を深め、卒業後のイメージの具体化に寄与することも目的に含まれる。

またプロジェクトとして、企業・機関からの依頼による音楽制作など収支バランスを考慮した事業展開を行った。

●成果及び達成度

2021 年度は学生の学外プロジェクトとして以下の 19 プロジェクトを実施した。参加した学生、卒業生の人数は以下のとおり（教員・学外業者等は除く）である。

〔ミュージッククリエーション専攻プロジェクト〕 音楽制作・ライブ等

・「ビルドアップ」CM 音楽制作(学生 4 人)・ボイストレーニング課題曲制作(学生 1 人)・アニメ「ドールズフロントライン」劇伴制作(卒業生 28 人)・「サーラ E&L」CM 音楽制作(学生 4 人)・映画「決戦は日曜日」劇伴制作(卒業生 20 人)・「ビルドアップ」CM 音楽制作_第 2 期(学生 2 人)・Vo 企画制作(学生 17 人)・「愛のかげら」レコーデ

ィング(卒業生 3 人)・「MM-TV」タイトル音楽制作(学生 4 人)・「速水早苗は一足遅い」音楽制作(学生 1 人)・「まるいチップ」CM 音楽制作(学生 5 人・卒業生 1 人)・大阪市立科学館プラネタリウムホールイベント音楽制作(学生 3 人・卒業生 3 人)・「ルルカカード」CM 音楽制作(学生 4 人・卒業生 1 人)・映画「教育と愛国」音楽制作(学生 3 人)・「ラクレッシュオーラルケア」CM 音楽、サウンドロゴ制作(学生 5 人)・ストック音源制作(学生 2 人)・「ビルドアップ」ラジオ CM 音楽制作(学生 1 人)・ふじしんサウンドロゴ制作(学生 6 人・卒業生 1 人)・「A-SAP」サウンドロゴ制作(学生 4 人・卒業生 1 人)・JM 梅田ミュージックフェス (8) (卒業生 1 人)

上記以外にもクリエイション専攻では、「プロモフェスシンポジウム」にて 6 人の卒業生が登壇(対面 1 人、オンライン 5 人)し、在学生と交流の機会を設けた。

〔著作権管理〕

㈱日音から印税の支払いがあり、著作者の学生及び卒業生へ分配を行った。

〔音楽配信事業〕

Daion Lab をレーベルとして 2019 年 5 月から音楽配信を開始している。

●今後の展望

学生の音楽制作の実践的な場となる学外プロジェクトを継続して行う。また、それらが学生のキャリア形成に結びつくよう支援していく。

ミュージックビジネス専攻の学生との関わりも今後視野に入れていく予定である。

教員採用試験二次試験対策講座

●要旨

公立学校教員採用試験(一次・二次)の実技試験と面接対策を強化する。「集団討論」「集団面接」「模擬授業」等の面接対策、「弾き歌い」「アルトリコーダー」「新曲視奏」等の実技対策は学生からの要望も多い。毎月 1～2 コマの定期的な対策講座に加え、7 月・8 月の直前対策を本学教員もしくは外部の講師が指導する。

●成果及び達成度

各自治体の教員採用試験一次試験の面接対策として、元中学校校長の中北義久氏による指導を 5 月・6 月に計 3 回実施し、延べ 10 人が一次試験に合格した。

7 月下旬からは「アルトリコーダー」「弾き歌い」「新曲視奏」の実技対策を開始し、9 月上旬までの期間中、10 人の学生が参加した。そのうち 4 人(延べ 5 人)が二次試験に現役合格することができた(大阪府 1 人、兵庫県 1 人、滋賀県 1 人、岐阜県 1 人、横浜市 1 人)。

教職の橋本龍雄教員、園田葉子教員、長谷川真由教員、片岡潤子教員、村田佳生教員が指導にあたり、自治体別に模擬授業、リコーダー指導、ピアノ弾き歌い指導、面接練習の対策を行った(15 日間で約 54 時間)。

学生の要望に応じてグループ指導と個別指導を行い、対面での実施を主体として遠隔でも実施した。

●今後の展望

2022 年度は前年度の春休みを活用して早い時期から一次試験対策を行い、筆記試験対策も強化する。継続して一次試験合格者及び現役合格者の増加を目指す。

上記対策と併行して、卒業生との交流を通じ、最終年次の学生に対し教育実習や進路選択に役立つ情報を発信できるように、教職部会、教職支援室、教務担当と連携する。

【2】国際交流

2021 年度は新型コロナウイルス感染症の影響が継続していたものの、7 月に海外提携校であるイギリスの王立ウエールズ音楽演劇大学から交換留学生 1 人を受け入れた。この留学生は 2022 年度の前期終了時まで本学で学業を継続する予定である。また、2 月に本学学生 1 人を同じく提携校である韓国の啓明大学校音楽・舞台芸術学院へ送り出

した。この学生は2022年度の6月末まで主として韓国の芸術・文化を学ぶ予定である。なお、大学院生1人から、次年度以降に本学を休学して提携校のミラノ・ヴェルディ音楽院に留学したいとの申し出があり、同音楽院が加盟するエラスムス・プラスに準じた大学間合意書の取り扱い等を巡って交渉を開始した。

【3】学生生活支援・福利厚生

2021年度に学生相談室を利用した学生は延べ569人であり、依然として新型コロナウイルス感染症の拡大が継続していたものの、一定数の学生が日常的にこの場所を利用していることが確認された。また、この相談室は授業において支援を必要とする学生と支援者が合流する場所としても利用され、支援に関する情報共有に役立った。なお、2021年度は障害者差別解消法の改正法が成立し、これまで努力義務であった合理的配慮が義務化されたこともあり、常駐するインターカーに対して学生の修学上の支援について助言を求める機会が増えた。

奨学金に関しては、本学独自の制度である「大阪音楽大学奨学事業財団奨学金」の2021年度新規貸与者数は、大学9人、大学院3人、短大7人であった。これに加えて、3月には緊急の対応として1人に特別奨学金を貸与した。

【4】教員の研究活動

2021年度は研究委員会を11回開催し、その内の第2回目はコロナ禍の影響もあり、試験的にZoomを用いたハイフレックス型の会議として実施した。この委員会では過年度より「研究活動の活性化」について検討を継続しており、7月には専任教員・専任嘱託教員を対象に無記名のアンケートを行った。その結果は以降の委員会の議題とした他、認証評価の实地調査においてもエビデンスの一つとなった。コロナ禍が継続する中で、研究助成の第2区分に該当する学術研究、芸術研究、研究成果公開について申請は0件であった。その一方で『大阪音楽大学研究紀要第六十号』には、投稿された原稿の査読を行った上で、論文1篇、研究ノート2篇を掲載し、3月末にホームページに公開した。公的研究費に関わる不正行為防止について、国のガイドラインが強化される中で学内規程定について改定や見直しを行った。科学研究費の採択に関しては、2021年度は新規に専任教員が申請した1件（基盤研究C）が採択され、専任嘱託教員1人と非常勤教員2人がその研究分担者となった。その他、専任教員2人が過年度に採択されたテーマによる研究を継続している。

FD推進

●要旨

FD総括委員会は予定どおり10回開催され、2021年度活動案に従い、FDフォーラムの開催、授業改善計画書、教員相互の授業見学、成績分布状況の把握、新任教員の研修制度、FD講習会への参加、アクティブラーニングの研究、教学IR分科会との連携について検討を重ねた。

●成果及び達成度

各部会から提出された2020年度FD活動報告書を基にしたFDフォーラムは6月と10月の教授会終了後に実施した。授業改善計画書の作成・発行は予定どおり行われた。教員相互の授業見学は14人の教員が行った。2020年度から始めた成績分布状況の把握は、2020年度成績分布状況データを基に、現状把握と改善策を部会毎にまとめた「成績分布状況の検証結果」の冊子を作成し、全専任教員に配付した。また、これをFD総括委員会だけではなく大学・短大運営会議でも取り上げ、学修成果の点検・評価及び内部質保証の認識の共有に努めた。新任教員の研修制度は非常勤教員の研修制度についてまとめた。FD講習会への参加については、オンラインで行われた講座の参加希望者を募り、参加した教員による報告会を行った。また、2020年度は実施できなかった外部講師によるFD研修会は、「大学に求められる合理的配慮の実践—基礎的理解と事例検討—」のテーマで2022年2月に行った。

●今後の展望

各部会の FD 活動を口頭発表する FD フォーラムは、書面だけでは分からないさまざまな活動を知る機会となるため、今後も報告書の作成と共に開催する。成績分布状況の把握・検証は、引き続き行い、成績評価方法等の改善につなげる。新任教員の研修制度については 2021 年度にまとめた非常勤教員の研修制度を基に専任教員の研修制度について検討する。アクティブラーニングの研究は、専攻・コースに関わらずアクティブラーニングを授業に取り入れるために、本学の実践例を全教員が認識する。FD 研修会は非常勤教員も含め広く認知されてきたが、さらに多くの教員の参加を促すための方策を検討する。

【5】自己点検・評価体制

本学の自己点検・評価は、2006 年 7 月に短大専攻科の自己点検・評価報告書を発行したことを皮切りに、大学・短大の各教育課程において不断に実施されている。自己点検・評価の結果は、教育研究等の向上に向けた取組に反映されており、自己点検・評価統括委員会を中心とする内部質保証のシステムが機能している。2021 年度は、主に次の活動を通じて、教育目的の達成状況及び本学の諸活動に係る包括的な自己点検・評価を実施するとともに、必要な改善に努めた。

1. 大学・短大の運営会議、大学・短大の専攻科運営委員会及び大学院運営委員会における実質的な自己点検・評価活動の推進と、その総括としてアセスメント・ポリシーに基づく学修成果の点検・評価の実施
2. 2021 年度の学生満足度調査の集計結果の分析、並びに改善すべき点に係る自己点検・評価部長、学生部長及び事務局長間の連絡・調整の実施
3. FD 総括委員会及び自己点検・評価統括委員会の連携活動として、「2019 年度大学・短大 成績分布状況の検証結果（部会別）」の検討と、両委員会としての見解を集約した報告書の作成
4. 2021 年度授業改善計画書において、各教員から示された授業アンケートに対する意見・要望の検討と、Q&A の形でその回答集（対応策等）の作成
5. 日本高等教育評価機構による大学・短大の機関別認証評価の受審に向け、2018-2020 年度自己点検評価書及びエビデンス集の作成

自己点検評価書等の作成と認証評価の受審

●要旨

日本高等教育評価機構の評価基準等に従って、各事務部門がエビデンス集（データ編及び資料編）を作成するとともに、各教育課程の運営会議体が教育・研究等について、理事会及び事務局が管理運営について、それぞれ点検・評価を実施した。特に、学生の学修成果及びディプロマ・ポリシーの達成状況に関しては、大学・短大・大学院の各アセスメント・ポリシーに基づく評価・検証に努めた。その結果を踏まえ、自己点検・評価統括委員会の構成員が中心となって「自己点検評価書（2018-2020 年度）」を作成して同機構に提出し、認証評価を受審した。

●成果及び達成度

日本高等教育評価機構による認証評価の現地調査は、2021 年 10 月 5 日から 7 日までの 3 日間にわたりオンラインで実施され、その後 2022 年 3 月 16 日に、大学・短大ともに同機構が定める評価基準に適合しているとの最終的な通知を受領した。

「自己点検評価書（2018-2020 年度）」の作成に必要な自主的・自律的な自己点検・評価活動において、教学 IR 分科会、自己点検・評価統括委員会、FD 総括委員会及び各教育課程の運営会議体等の連携が強化された。その中で、教育研究に係るデータの分析結果を共有し、それに基づく改善施策の実施を通じて、内部質保証の実質化を推進する体制が整えられた。

●今後の展望

日本高等教育評価機構による認証評価は「適合」と認定されたが、大学・短大の自己点検評価書の基準項目ごと

の「改善・向上方策（将来計画）」において掲げられた事項の他に、同機構からも学校法人及び大学・短大の運営に関し、複数の問題点が指摘された。今後、全学でこれらの課題を改めて認識し、解決を図った上で、次の自己点検評価に向け新たな PDCA サイクルを進める。

学生による授業アンケート

●要旨

全学的な自己点検・評価活動の一つとして、「学生による授業アンケート」を実施した。新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの授業科目において遠隔授業が行われた前期については、ポータルシステムを利用したウェブアンケートとし、同感染症が一時的に沈静化した後期については、従来の紙媒体によるアンケート（対面授業を実施する科目等）とウェブアンケート（遠隔授業を実施する科目等）とを併用した。同アンケートは、経時的な推移を把握するため、例年どおり教育課程別・科目分野別・科目別等に集計した。集計結果及び自由記述欄への記載内容に関し、前期はポータルシステムを通じて、後期はプリントアウトしたものを学内のメールボックスを通じて、授業担当教員に返却した。

なお、同アンケートの調査内容には授業評価のみならず、学生の受講意欲や授業時間外の学習活動等が含まれる。このため、自己点検・評価統括委員会は、従来の「学生による授業評価アンケート」の名称を、2021 年度から「学生による授業アンケート」に変更することを決定した。

●成果及び達成度

大学・短大の全教育課程における 2021 年度前期の授業アンケート（ウェブ利用）の回答率は 27.9 パーセント、後期（紙媒体とウェブの併用）は 60.3 パーセントであった。学生への周知を図ったにもかかわらず、ウェブを利用したアンケートの回答率が相当に低かったことから、紙媒体のみで実施した 2019 年度の回答率 79.7 パーセントを大きく下回った。

授業アンケートの集計結果は、2022 年度前期中に図書館、教職員集会室等、学内数カ所に配備する予定である。また、授業アンケートの学生へのフィードバックの一環として、全ての専任教員と専任嘱託教員に加え、有志の非常勤教員が作成した授業改善計画書を冊子にまとめて学内に公開する。

授業アンケートに加え、大学・短大の各教育課程の卒業・修了年次の学生に対し、2022 年 3 月 25 日の卒業式終了後に「卒業（修了）時アンケート」（紙媒体、記名式）を実施した。このアンケートは、学生の視点からのディプロマ・ポリシーの達成度を捉えるものであり、カリキュラムの改善や教育の質的向上に活用される。

●今後の展望

2022 年度以降、全ての授業アンケートはウェブ上での実施となる。授業担当教員が学生の学習実態を把握し、また学生からの意見を組み上げて授業改善に役立てるためには、アンケートの回収率を高めることが不可欠である。このため、自己点検・評価統括委員会は、2021 年度第 11 回委員会において、ウェブ上の授業アンケートについても授業時間内に行うこと、教員及び学生に対して必要な案内を行うことを決定した。

2022 年度からは「学生による授業アンケート」及び「卒業（修了）時アンケート」に加え、教育課程内外の学修行動や学修意識を問う「学修行動アンケート」（紙媒体、記名式）を実施する予定である。これら 3 つのアンケートは、定量的・統計的な分析を通じて、教育改善や学習支援に向けた議論の根拠資料として、学内の各種会議体において活用するとともに、個々のデータは学生本位の学びを支援する EM（Enrollment Management）の基礎資料として一元的に取り扱えるようにする計画である。

授業改善計画書

●要旨

2020 年度後期の「学生による授業評価アンケート」の集計結果をもとに、専任教員が担当する全科目（リレー授

業等の一部科目を除く）及び一部の非常勤教員が担当する科目について授業改善計画書を作成した。これら個別の授業改善計画書は講義・演習科目については教育課程別に、レッスン科目については教員別にまとめて CD-R に集成し、同計画書を執筆した全教員に配付した。

●成果及び達成度

授業改善計画書の目的の一つは、各教員が授業の内容と実施方法を着実に振り返ることによって、改善への「気づき」をもたらすことである。また、同計画書を CD-R として集成し、各教員に配付したことによって、他教員の授業の状況や「気づき」を参照しやすくなり、それを各自の授業実践に反映させることを通じて、本学全体の教育の質向上に役立つことが期待される。なお、集成した授業改善計画書は、「学生による授業評価アンケート」に対するフィードバックとして、学生及び教職員が自由に閲覧できるように、付属図書館、学生支援センター、教職員集会室等に配備した。

●今後の展望

今後も前年度後期の「学生による授業評価アンケート」の集計結果を基にした授業改善計画書の作成を継続する。現在、全専任教員に授業改善計画書の作成を義務付けているが、非常勤教員にも作成を促し、より充実したものにする。

【6】音楽メディアセンター 付属図書館

2021年度の本学学生の図書館利用はコロナ禍以前と比較した場合、73パーセント程度に止まっており、今後も感染防止対策を徹底しながら学生の利用率を向上させる取り組みを継続する必要がある。2020年度から着手したVHSテープの手作業によるDVD化の作業は174点の変換を終え、経年劣化が懸念される視聴覚資料の保全につながった。館内での取り組みに加え、2021年度は音楽図書館協議会の相互協力委員会に参加し、総会において実態調査の結果を報告した。

これらの活動を経て、2022年3月31日現在の資料数は図書・楽譜を合わせて約114,000点、視聴覚資料は約54,000点となった。ただし、年度内に書庫への漏水が2回発生した影響で、先に133点、327,803円相当の図書資料を廃棄している。

【7】音楽メディアセンター 楽器資料館

2021年3月末からの新型コロナウイルス感染症再拡大により、一般公開は5月より日時、人数を限定して一般公開を再開した。学内公開は年度当初より開始した。館内授業は、感染防止の観点から、少人数の授業での利用を受け入れた。また、例年来館している高等学校などの団体は、10月以降5校を受入れた。来館者の受入時には、新型コロナウイルス感染症拡大防止方針を基に、来館者、館スタッフへの注意喚起とともに、消毒、検温、換気、エレベーター利用時の感染防止対策を実施した。

展示替え

●要旨

2017年の移転時より、諸民族の楽器展示は基本的に地域別展示を行ってきた。本学学生の楽器への関心をより高めるために、楽器の発音原理に基づいた展示に転換した。6月より基本構想を整え、9月末に新たな展示方式で公開をした。

●成果及び達成度

楽器の変遷や伝播の様子が理解しやすくなり、学生はもとより、一般来館者の館内滞在時間が長くなった。また、学生から積極的な質問が増加する傾向にある。

【8】 付属音楽幼稚園

新型コロナウイルス感染症の感染予防に努めながら保育を行った。行事等も中止とせず、開催規模の縮小や参観人数を分散するなどの対策を講じて実施した。一方で、新型コロナウイルス感染症が幼児にも蔓延し始めたことにより、園内でも複数人の感染者、濃厚接触者が発生した。予防対策を再度見直して慎重に保育を行い、学級閉鎖の措置を講じながら、園閉鎖をすることなく学年末を迎えることができた。

在園児は5月1日付けで278人（3歳児3クラス93人、4歳児3クラス100人、5歳児3クラス85人）、3月には5歳児82人が卒園した。

2歳児親子教室「りんごクラブ」は35組募集のところ、前期（6月～9月）は87組の申込があり、3クラスに分けて実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響による休講等により十分な回数を実施できなかったため、後期（11月～2月）は定期クラスの募集を行わず、一回ごとに申込をすることができる2歳児親子イベント「ようちえんであそぼ！」を増設して実施した。なお、2022年度入園児（3歳児）86人中42人が「りんごクラブ」受講者であった。

音楽教室「クレフ」（希望者対象のピアノ・ヴァイオリン・マリンバの3種の課外レッスン）は、6月1日時点で対象園児の45パーセントに当たる84人が受講した。

少人数制の音楽指導「Poco」

●要旨

「みんなで楽しむ音楽」を中心とした保育を目的として、年中児・年長児がグループに分かれ、専門講師と共にキーボード・ヴァイオリン・打楽器をローテーションして体験する。感染防止対策の一環として、空間・距離を保てるよう、例年使用しているレッスン室よりも広い保育室において実施した。

●成果及び達成度

Pocoではヴァイオリン、キーボード、マリンバ（打楽器）の3種類を使用した。園児はその年齢や環境による理由からそれらの楽器に日常的に触れる機会は少なく、習い事として経験する子どもに関してもそれらの1種類であることがほとんどであるため、保育の中で経験できることは保護者にとっても満足のいく活動の1つと言える。

活動を通して技術の向上を目的とするのではなく、友だちと共に行う楽しさを感じたり、講師の援助により「できた！」という体験を通して達成感を味わうことをねらいとした。幼児期のそのような体験の積み重ねが個々の自信の素地となるため様々な活動に活かすことができた。

●今後の展望

音楽幼稚園の特色となる事業であるため、広報活動を展開し幅広くその活動を告知する機会をもつことを検討する。園児が楽しむだけでなく、楽器に触れる様子を観たり、楽器演奏を聴いたりするような保護者のための参観やイベント等の機会を、現在の社会状況が落ち着き次第再開していきたいと考える。これにより、入園志望や課外事業である音楽教室「クレフ」の受講生の増加につながるものと考えている。

B 社会連携活動事業

【1】 アドミッション事業

大学及び短大で総合型、学校推薦型、一般、後期総合型の4種類の入学者選抜を、また大学院、大学専攻科、大学3年次編入、短大専攻科でもそれぞれ入学者選抜を実施した。大学専攻科の入学者選抜においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、別日程で追試験を実施した。その他の入学者選抜については、特に問題なく無事遂行できた。

入学者選抜広報関連として、オープンキャンパスや体験レッスン、セミナー、ワークショップなどの各種イベン

トを年間を通じて開催した。前年度と比較して中止となったイベントは少なく、大半のイベントを対面方式で実施することが出来た。

オープンキャンパスの開催

●要旨

本学の充実した教育環境と魅力を伝える機会として、7月・10月・3月の3回のオープンキャンパスを実施した。新型コロナウイルス感染症対策を万全に施し、対面方式で実施した。

オープンキャンパスにおいて専攻・コース別のイベント及び入試センタースタッフによる個別相談会を開催した。

●成果及び達成度

7月は171人、10月は137人、3月は158人の参加者があった。昨年度から新型コロナウイルス感染症対策として予約制を採用したこともあり、参加者の熱意も高く感じられた。オープンキャンパスがきっかけになって、トライアルレッスンやその他専攻・コース別イベントに参加する人も見られ、受験生にとって本学を知る最良の機会となっている。

●今後の展望

参加者の増加を目指し、更なる受験生の確保に向けた貴重な機会とするため、①「イベントの周知」②「イベント内容の見直し」の2点を今後の重点課題とする。①については例年同様、資料請求者への資料送付、高校への周知、高等学校教員への個別案内、SNSでの発信によって資料請求者以外への周知を高める。②についてはオープンキャンパス参加者のアンケート結果や各専攻・コースの志願率などを参考に、受験に直接的につながる内容や高校生が関心を持つ内容への変更を行う。

専攻・コースイベント

●要旨

専攻・コース別に入試広報活動を展開しており、今年度は新たに①ヴォーカルフェスティバル2021②管弦打マスタークラス③ミュージックコミュニケーション専攻による学生制作のイベント実施報告書の配布と発送④ジャズ教員による出張演奏&クリニック⑤高校軽音フェスティバル⑥ミュージカル学生帯同型出張授業の実施を予定していた。①と⑥は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったが、②③④⑤は対面方式やオンライン方式で実施した。

●成果及び達成度

②は本学教員によるフルート、打楽器、ピアノの公開レッスンを行った。本学教員の質の高いレッスンを受講または聴講いただいたことにより、中・高校生の志願意識の向上を図ることができた。同時に音楽指導者への広報活動にもつながった。③は本学学生制作のイベント実施報告書を関西の高校（音楽科、音楽系クラブ、放送部、演劇部）1,700件へ向けて発送した。また、オープンキャンパス等本学来場者や進路相談会、高校訪問等で高校生と高校教員に配布を行った。④は本学教員を中学校1校と高等学校2校へ派遣し、演奏とクリニックを実施した。これにより中・高校生の志願意識の向上を図ることができた。⑤は株式会社ジェイコムウエストが開催している「高校軽音フェスティバル」にメインスポンサーとして携わった。オンラインでの開催となったが、本学在学学生バンドの出演や本学教員による高等学校5校のクリニックを通じて軽音楽部員に本学の周知を図った。

●今後の展望

各専攻・コースの充実した教育内容や指導教員、施設等の教育環境、在学生の状況を伝える重要な情報提供の機会となるよう来年度以降も継続して実施する。

●要旨

新専攻開設にあたり①オープンキャンパス開催②高校内模擬授業③ライブ開催を予定していた。①はミュージックビジネス専攻独自のオープンキャンパス及び進学相談会を計 24 回開催した。②は本学教員が要望の有った高等学校で模擬授業を行った。③は Spotify のピックアップアーティストによるライブを 7 月に開催したが、コロナ禍のため無観客でのオンライン開催となった。

●成果及び達成度

①はエンタメ業界の第一線で活躍しているゲストを招き、講座を通して高校生に向けてエンタメ業界と本専攻のつながりの深さをアピールし、入学後のカリキュラム、就職への具体的なイメージを持たせることにより志願者増加につなげることができた。②は高等学校 13 校で模擬授業を実施し、新しい専攻を高校生のみならず、高等学校の音楽教員や進路担当教員にも周知する機会となった。③Spotify で高校生に人気のアーティストを招き、難波のライブハウスジェニスでライブを開催した。コロナ禍のためオンライン開催となったが、エンタメ業界と本専攻のつながりをアピールすることが出来た。

●今後の展望

本専攻の充実した教育内容や指導教員、施設等の教育環境、在学生の状況を伝える重要な情報提供の機会となるよう来年度以降も継続して実施する。

【2】対社会事業

＜エクステンション関連＞

8 月に教員免許状更新講習を実施した。9 講習を開催し受講者数は延べ 272 人であった。

＜社会連携関連＞

連携支援センターでは、大学の教育研究活動の成果の一端を地域社会に還元することを目的として、地方自治体・公共団体・自治会・公民館・ボランティア団体・一般企業等、様々な分野の団体と連携を結び、社会貢献活動を実施している。同センターの連携関係事業は、大きく社会学連携事業、公開講座、依頼演奏に分類することができる。

・地域社会との連携

①豊中市主催の「第 6 回豊中音楽コンクール」については当初 6 月開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発出により延期となった（10 月に予選、11 月に本選）。延期後日程では感染防止対策を十分に行ったうえで実施した。

豊中中央ライオンズクラブの運営資金援助により「市立豊中病院ランチタイムコンサート」、豊中中央ライオンズクラブ及び豊中市、豊中市教育委員会との共催で「豊中こども音楽フェスティバル」等を実施に向けて準備していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全て中止となった。

②寝屋川市との包括連携協定に基づき、同市主催事業の「アルカスピアノコンクール」へ審査員紹介を行った。

・公開講座

豊中市、高槻市、羽曳野市等、自治体と連携協力して提携講座の実施や講師派遣等を行った。

①豊中市：中央公民館との共催による大学開放講座「音楽・心の旅」

②高槻市：けやきの森市民大学 大阪音楽大学公開講座「音楽の宝石箱」

③羽曳野市：はびきの市民大学 講座への講師紹介

・依頼演奏

地方自治体、公共団体、公益法人、ボランティア団体、学校、企業及び個人等から多数の演奏依頼を受け、一定の演奏水準を保ちつつ卒業生支援の一環として、演奏者の手配・派遣・紹介等マネジメント業務を行っている。これは卒業生の活躍の場を確保するとともに、大学の広報活動の一翼を担う事業でもある。また近年は、在学生でも

特に優秀な個人やグループに演奏を依頼し、実地研修の場として活用している。今年度は新型コロナウイルス感染症による影響が続いていることもあり、申込件数が13件（内1件は中止）と少なかったが、感染防止対策に万全を期して、在学生及び卒業生を派遣した。

DAION 座ワークショップ&コンサート&レッスン

●要旨

2021 年度より DAION 座レッスン生制度を廃止とし、ミュージカルを研究する団体『DAION ミュージカル研究会』とする。DAION ミュージカル研究会会員が中心となり、外部団体から依頼のある「ワークショップ」や「コンサート」を実施する。広く DAION 座の存在を周知し、将来、大阪発の創作ミュージカルを上演する際には、芸術面だけでなく、経済的な成功も目指し、本学の名声をも高めることにつなげる。上演に備え、講師を招いて DAION ミュージカル研究会会員らの技術を高めるレッスンを有償で行い、運営費の一部に充当する等、収支バランスを考慮した事業展開を行っている。

●成果及び達成度

2021 年度も新型コロナウイルス感染症の影響によりコンサートの開催を中止したが、ワークショップ、委嘱講師によるレッスンをを行った。事業等の詳細は以下のとおり。

□DAION 座 夏のワークショップ（延べ参加人数：学生 19 人）

8 月 3 日、8 月 5 日、8 月 6 日、8 月 21 日

□レッスン

4 月～3 月実施（2 月は実施なし）

DAION ミュージカル研究会会員らの技術を高めるため講師を招きほぼ毎月実施

●今後の展望

2022 年度は、教員の外部公演出演の兼ね合いもあり DAION 座としての公演は実施しない方向である。近い将来 DAION 座自主公演実現に向けた実績を積むため、観客 200 人～300 人規模の公演を行う構想はあるが、コロナ禍によって先が見通せない状況にあり、具体的な計画は立てていない。

ミュージッククリエーション専攻卒業作品発表会

●要旨

ミュージッククリエーション専攻 卒業作品完成披露会「MUSIC CREATION AWARDS 2021」を、2022 年 2 月 11 日（金・祝）にミレニアムホールで開催した。「歌モノ」「インスト」「劇音楽」の中から、学生自身が卒業作品として選択し、制作した「セルフプロデュースアルバム」を披露した。前年度に引き続き審査員長を作曲家・三枝成彰氏に依頼したほか、映画監督やゲーム会社、作家事務所等から審査員を招き、各賞を選出して表彰を行った。また、新型コロナウイルス感染症対策として入場は事前登録制とするとともに、ライブ配信によるオンラインイベント公演として実施した。

●成果及び達成度

ミュージッククリエーション専攻 3 期生 9 人が「セルフプロデュースアルバム」を披露し、審査の上各賞の表彰を行った。また、表彰終了後、学生と審査員・外部ゲストとの交流会を A 号館 301 教室で行い、親睦を深めた。

●今後の展望

次代を担う若き音楽クリエイターの存在と活躍を社会に広く発信し、卒業後の音楽活動とキャリア形成を後押しする。

キャリア支援センター東京ブランチの設置

●要旨

東京における音楽系企業・メディア・IT 関連企業への求人開拓及びインターンシップの拠点としてブランチを開設する。場所は東京ポートシティ竹芝 8 階の CIP 協議会シェアオフィスを活用する。また、企業開拓担当スタッフとして当該業界に人脈を持つ人物と業務委託契約を締結した。

●成果及び達成度

2021 年 4 月に東京ブランチを開設した。東京ブランチスタッフが東京ブランチ主催セミナーや就職情報の提供、学生面談などを行った。内容は以下のとおり。

<4 月>就職情報提供 93 件

<5 月>学生面談 2 件、就職情報提供 57 件

<6 月>東京ブランチ説明会(参加学生 23 人)、学生面談 1 件、就職情報提供 40 件

<7 月>学生面談 1 件、就職情報提供 33 件

<8 月>学生面談 1 件、就職情報提供 38 件

<9 月>学生面談 1 件、就職情報提供 45 件

<10 月>東京ブランチセミナー(参加学生 5 人)、学生面談 2 件、就職情報提供 38 件

<11 月>就職情報提供 41 件

<12 月>就職情報提供 37 件

<1 月>就職情報提供 35 件

<2 月>東京ブランチセミナー(参加学生 4 人)、学生面談 2 件、就職情報提供 29 件

<3 月>学生面談 1 件、就職情報提供 39 件

【東京ブランチセミナー計 3 回、学生面談計 11 件、就職情報提供計 525 件】

●今後の展望

2022 年度開設のミュージックビジネス専攻の発展には、卒業後の出口保証の強化が不可欠である。ミュージックビジネス専攻学生が目指す業界・企業は主として東京圏に本社を置いているため、戦略的な広報活動拠点が必要である。また、大学全体及びミュージッククリエーション専攻学生、ミュージックコミュニケーション専攻学生の就職活動の相談拠点として更なる進路・就職支援の強化を図るとともに、インターンシップや合同企業説明会などを通して、東京圏にある企業との関係を築いていく。東京における入試相談の場としての活用も企図している。

サウンドスクール

●要旨

サウンドスクール事業は、豊中市との包括連携協定に基づき、豊中市教育委員会と連携して「音楽あふれる学校園づくり」をテーマに、2006 年度から事業を展開している。通常であれば、豊中市立のこども園・小学校・中学校へ、授業支援、出張演奏、クラブ活動支援、伝統音楽の普及といった活動を実施しているが、2021 年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、飛沫の恐れのない演奏編成に限定して授業支援と出張演奏を 34 件（こども園 11 件、小学校 20 件、中学校 3 件）実施し、延べ 212 人の学生（卒業生・教員・演奏員を含む）を教育現場へ派遣した。

●成果及び達成度

2021 年度はコロナ禍以前と同様に 6 月下旬から実施した。昨年度策定したサウンドスクール実施に関する「新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン」をアップデートさせ、6 月から 3 月まで実施した。弦楽四重奏、打楽器アンサンブル（今年度より追加）、ピアノ独奏、邦楽アンサンブル（箏、三味線）に限定しての実施となったが、コロナ禍で生の音楽を聴く機会が減少していたこどもたちに生きた演奏を届けることができ、児童、生徒、教職員と

もに好評だった。実施したすべての学校園より、教育活動への効果について「役立った」、「次年度も本事業を実施したい」との報告を受けた。

●今後の展望

コロナ禍ということもあり応募件数が減少しているが、実施した学校園からの肯定的な意見を未実施校へ伝え、安全に実施できることを周知し、児童生徒の情操教育の一助となるべく実施校の拡大を図りたい。

豊中こども音楽フェスティバル

●要旨

豊中中央ライオンズクラブ、豊中市、豊中市教育委員会と連携協力し、音楽を通じてこどもたちの感性を育むことを目的に毎年実施してきたが、2021年度も2020年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止とした。

●成果及び達成度

政府や自治体による部活動等の制限、自粛要請を受けて十分な練習環境が整わず、出演校の活動が難しくなり、また、多方面から小中学生が集まり密になるイベントであるため、共催の四者で協議の結果、2021年度についても安心安全を考慮して中止を決定した。

●今後の展望

2022年度以降は今後の吹奏楽界の動向を見ながら、文化芸術活動に取り組むこどもたちの発表の場として、こどもたちの目標となる演奏会を目指し、また、舞台芸術の鑑賞の機会として浸透するよう運営する。コロナ禍以前のような演出ではなく、感染症拡大防止に配慮して関係者全員が安全に参加、運営できるよう努めたい。

第6回豊中音楽コンクール

●要旨

豊中音楽コンクールは、2015年度から豊中市と共催で、2019年度より豊中市主催として、「次代を担う優れた演奏家を発掘・育成し、音楽文化の振興を図ることを目的」として設立されたクラシック音楽コンクールで、本学は2019年度より運営を委託されている。昨年度延期分として、学内施設で6月5日(土)・6日(日)に予選、6月20日(日)にザ・カレッジ・オペラハウスで本選を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う緊急事態宣言の発出により、10月30日(土)・31日(日)に予選、11月14日(日)に本選を再延期し開催した。

部門は高校と大学・一般があり、それぞれにピアノ、声楽、管楽器、弦楽器の各部門を設け、定員は各30人、審査員は本学教員と学外の著名な演奏家の方々に依頼して行った。

上位入賞者は、その年の秋にザ・カレッジ・オペラハウスで開催する「豊中音楽コンクール 受賞者記念コンサート」に出演することができる(2021年度は中止)。また、高校声楽部門入賞者で条件を満たした者(1人)は、大阪府高等学校音楽教育研究会より「瀧廉太郎記念 全日本高等学校声楽コンクール」の大阪府代表として推薦を受けられる。

●成果及び達成度

コロナ禍ではあったが、高校の部104人、大学・一般の部116人という、多数の応募をいただいた。

コンクールビジネスが横行する中、真に実力を問うコンクールとして着実に支持が増えている。

●今後の展望

同コンクールは、豊中市主催のもと、2022年6月18日(土)・19日(日)に予選、7月3日(日)に本選を開催することが決定している。審査員は学外の著名な演奏家の方々にも依頼することができたため、全国的な音楽コンクールとしてさらに発展できるものとする。感染拡大防止対策を実施し、安全な運営に努める。

【3】オペラハウス事業

本格的なオペラ公演のできるホールとして建設されたザ・カレッジ・オペラハウスは、「新音楽、新歌劇ノ発生地タラン」という建学の精神に謳われている創立者の大志を実現すべく、これまで多数のオペラ公演を行い、関西、否、日本有数のオペラ発生地として、文化庁芸術祭において「芸術祭大賞」を3度受賞したのを始め、モービル音楽賞（現、ENEOS音楽賞）の本賞や三菱UFJ信託音楽賞の本賞を受賞するなど、創立者の夢を着々と実現するとともに、社会からも高い評価を得てきた。

しかしながら、2020年度には2014年に上演して文化庁芸術祭で「芸術祭大賞」を受賞した「鬼娘恋首引」と「カーリユー・リヴェア」の2作品を井原広樹演出、牧村邦彦指揮でキャストや演出の一部に手を入れて上演する予定であったが、2020年から世界的に猛威を振っている新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、その後もコロナ禍の影響が続き、主催オペラ公演は一旦休止を決定した。ただし、オペラの灯をともし続ける重要性和使命を念頭に、セミステージ形式による実施も含めて検討した結果、ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団定期演奏会のプログラムにおいて、新たな形でコンサート・オペラとしてヴォルフ＝フェラーリの「スザンナの秘密」を井原広樹演出、牧村邦彦指揮で上演した。キャストも少なく舞台上の道具も簡易ではあったが、大変見ごたえのある公演との好評を得ることができた。今後も、この形式でのオペラ公演実施の可能性を探り進めていく考えである。

ザ・カレッジ・オペラハウスは教育、研究の成果発表の場として、また学校法人として様々な催事の会場として広い用途にも活用されている。コロナ禍の影響により年度始めにおいては行事・催事の延期等が生じたが、6月下旬以降は感染防止策を徹底し、入場者数も一時制限（11月より人数制限解除）して公演を再開した。大学主催演奏会として16公演（20件）開催し、1,725人が入場した。また、学生の自主公演や授業の延長上にあるコンサート等を12公演開催し、3,259人が入場した。さらにクラシック系の専攻・コースで学ぶ学生は、卒業実技試験の際、原則的にこの舞台で演奏の機会を持つことになっており、2021年度は33回に及ぶ卒業・修了演奏が実施され1,063人が入場した。

その他にも、付属音楽幼稚園の公演が1回行われ636人の入場者を得た。また、コロナ禍で延期された催事も一部あったが、オープンキャンパス、入学式、卒業式などの行事・催事10件で1,857人の入場者があった。他に共催（協賛）事業が4件あった。これらの結果、年間催事総数は80件、総入場者数は8,485人、総稼働日数は234日となった。

ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団は、京阪神地域を中心に4件7回の依頼演奏を実施し、特に様々な団体のオペラ公演には欠かせない存在になっている。2021年度には、文化庁「文化芸術による子供の育成事業（巡回公演事業）」を担い、東京、神奈川、茨城、埼玉、山梨、愛知、岐阜、三重、奈良、滋賀、兵庫の1都10県で巡回公演事業を実施し、ワークショップや演奏会を計16校29回開催した。新型コロナウイルス感染症の影響により中止を決定された学校があったが、巡回公演等の実施は本学の名を広く関東地方や中部地方にも知らしめることとなった。

ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団第59回定期演奏会

●要旨

学校法人主催によるザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団単独のステージコンサートと、セミステージ形式によるコンサート・オペラを上演した。

●成果及び達成度

本演奏会は前半のプログラムに協奏曲を取り上げ、独奏者として大学院生の中からオーディションによって選出された優秀な学生を出演させることで、大学院教育の充実に貢献している。また、大学主催のオペラ公演を当面の間休止するという決定を受け、後半のプログラムでは、「大音オペラ」の灯を絶やさないため、オーケストラコンサートの予算枠で開催できるセミステージ形式で一幕物のオペラを上演した。また、プロオーケストラ奏者養成機関の性格も併せ持つオーケストラとして、コアメンバー（本学卒業生のオーディション合格者）にステージ上で管弦

楽曲、協奏曲、オペラの演奏機会を与えることによって、重要な研修の場を設定することができた。

●今後の展望

今後もコアメンバーに対し、主催演奏会への出演機会を増やし、多くの曲目経験を積ませることで、メジャーオーケストラの採用オーディションに合格できる実力を養成することや、オーディションを通過した優秀な大学院生にオーケストラ伴奏での協奏曲演奏の経験を積ませる機会とする。

今後は、定期演奏会を前期と後期の年 2 回開催とし、前期演奏会では大学院教育の充実と、コアメンバーにステージ上での管弦楽曲、協奏曲、交響曲の演奏経験機会を与え、後期演奏会では演奏会形式によるオペラ（オペラのセミステージ公演）の内容を充実させるため、二幕物のオペラを上演して文化庁芸術祭にも参加できるようにし、助成金を申請できる条件を整える。

●公的助成・民間助成について

当公演は、公益財団法人花王芸術・科学財団より助成金を受けている。

オペラハウス管弦楽団出張演奏

●要旨

オペラ制作団体等の外部団体からの依頼を受けて出張演奏を実施し、収益事業としている。また、学校法人の広報活動の役割も担っている。

●成果及び達成度

依頼演奏は、学校法人の広報活動の一端も担っている重要な業務との認識を持ち依頼主に対応している。今年度は、6 公演の受託をしていたが最初の 7 月の公演については、新型コロナウイルス感染症予防の観点から中止となった。残りの 5 公演については、主催者との打ち合わせを重ねた上で、PCR 検査や抗原検査を本番までに複数回実施し公演に臨んだ。1 年間を通して、楽団員の中には新型コロナウイルスに感染する者が複数名出ることとなった。練習段階までの場合は客演奏者を依頼することで克服したが、本番前での罹患者については、主催者と協議の上了解を得て減員して公演を実施した。いずれの公演も感染予防に留意しながらの厳しい運営を迫られたが、結果は好評であった。

●今後の展望

新型コロナウイルス感染症の影響による昨今の経済状況から、依頼演奏の受注件数は減少すると思われるが、オペラ公演等において演奏の質を一層高めることで、より多くの依頼演奏を受けられるよう努める。

文化庁巡回公演事業

●要旨

①「文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－」

小学校・中学校において一流の文化芸術団体による巡回公演を行い、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成を図り、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としている。

②「子供のための文化芸術鑑賞・体験支援事業」

新型コロナウイルス感染症の影響下において、学校内外で子供たちが文化芸術の鑑賞や体験・修得をする機会が多く失われているため、学校等において実演芸術等をはじめとする多様な文化芸術の鑑賞・体験が享受できる機会を提供することを目的としている。

●成果及び達成度

2021 年度は、①「文化芸術による子供育成総合事業」で大編成オーケストラの A 区分と小編成オーケストラの C 区分の両方の採択を受けることができた。年度当初は、①A 区分 6 校、C 区分 16 校、②「子供のための文化芸術鑑

賞・体験支援事業」3校の合計25校の公演を受託していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により延期や中止が相次ぎ最終的に①A区分5校、C区分9校、②2校で合計16校の開催に止まり9校の公演が中止となった。

●今後の展望

2022年度は、C区分の採択団体が5団体と昨年度の2.5倍となったことと、新型コロナウイルス感染症の影響により本楽団の採択数が3分の1の5校となった。今後は、C区分でも採択競争が激しくなることが予想されるため、より一層の演奏水準の向上に努めたい。

オペラハウス合唱団出張演奏

●要旨

外部団体等から依頼を受けて、ザ・カレッジ・オペラハウス合唱団が出張演奏を実施している。

●成果及び達成度

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、合唱を用いたオーケストラ作品の公演が極端に減少している。その影響もあり、2021年度については出張演奏の依頼を受けることができなかった。

●今後の展望

公演の種類や規模を問わず多くの依頼を受けることにより、オペラハウス専属の合唱団としての実力を示し、実績を積み上げるよう努めたい。

【4】付属音楽院

2021年度の受講者数はコロナ禍前の90パーセントの水準に戻り、新型コロナウイルス感染症の対策を十分に講じた上で運営を継続した。マスクの着用や一部レッスンではフェイスシールドを併用し、飛沫防止パネルを使用するなど、受講に際して制約がある中での実施にもかかわらず多くの受講者が来校した。その反面、マスク着用での受講が厳しいなどの理由でレッスンを取りやめる受講生も多数いた。年度末には発表会を実施し、コロナ禍にあっても、ホールで演奏できる喜びやレッスンの楽しさなど受講者の満足度の維持・向上につなげることができた。

進学コース充実、改革のための事業

●要旨

2016年度に着手した進学コース改革を継続し、進学コースに在籍する受講生への特典（入学お祝い金、音楽院賞、特別給付奨学金の贈呈）を付与し、音楽・芸術系大学を目指す受験生の育成を図る。

●成果及び達成度

2021年度の進学コースには対面クラス16人、Webクラス1人が在籍し、そのうちの10人が2022年4月に本学に入学した。

入学お祝い金を支給（実技クラス：2人、基礎科目クラス：2人、実技クラス・基礎科目クラス両受講：5人）、音楽院賞を贈呈（実技優秀賞：1人、実技奨励賞：2人、基礎科目優秀賞：1人）、特に優れた成績を収めた受講生に贈られる特別給付奨学金の該当者もあり、受講生のモチベーションにもつながったと考える。

進学コースのカリキュラムを通じて音楽基礎科目の知識・能力を着実に身に付けようとする受講者の割合は多く、大学入学後の円滑な学修の開始につながっている。

●今後の展望

進学コースでは、新たな入学者選抜制度に関する説明を含め、より適切で丁寧な対応に努める。このため、これまで以上に入試事務部門との連携を深め、新規事業等に関する相談や情報交換を綿密に行い、受講者サービスを徹底していく。また、大学・短大の各部会とも連携を図り、未来の音楽家の育成に力を注ぐ。

キッズ・ジュニアコースの充実

●要旨

未来の音楽家を育成するため、ジュニア・オーケストラとザ・カレッジ・オペラハウス少年少女合唱団を新たに立ち上げた。ジュニア・オーケストラは 12 人、合唱団は 18 人の団員が集まり、ザ・カレッジ・オペラハウスにて合同の定期演奏会を実施した。両団の合同演奏曲も取り入れ、来場者は 200 人を超えた。

中学生以下の受講者による発表会「ミュージックカーニバル」については、2022 年 3 月 20 日、21 日、26 日の 3 日間に分けて実施した。

●成果及び達成度

- ・ 2 月 20 日 ジュニア・オーケストラ&ザ・カレッジ・オペラハウス少年少女合唱団合同定期演奏会
ミュージックカーニバルの出演者の区分は次のとおりである。
- ・ 3 月 20 日 キッズレッスン（ヴァイオリン・チェロ）及びマンツーマンレッスンの受講者
- ・ 3 月 21 日 キッズレッスン（ピアノ・マリンバ）及びマンツーマンレッスンの受講者
- ・ 3 月 26 日 グループレッスンの受講者

●今後の展望

大阪音楽大学でしか実施できないレッスンを提供していく。ザ・カレッジ・オペラハウスを使用した合同定期演奏会の実施、演奏家のための特別クラスや各専攻のマスタークラスの実施など、感染症対策を十分に講じながら積極的に取り組んでいく。

動画配信事業

●要旨

YouTube（オンライン動画共有プラットフォーム）を使用し、レッスンや演奏など音楽を主体とした動画配信を行った。音楽院の広報としての役割も担う。

●成果及び達成度

これまでに 246 本の動画をアップロードした。2022 年 3 月末現在のチャンネル登録者数は 2175 人となっている。過去 1 年間の視聴回数は 17.3 万回、総再生時間は 7311 時間、月平均収益は 4158 円となっている。

本学教員や音楽院講師の演奏、指導動画など、多様な角度から大阪音楽大学の広報活動を展開できたと考える。

●今後の展望

これまで撮影動画をアップロードしていない専攻についても動画を作成し、積極的に配信していく。

C 法人組織運営事業

【1】広報活動

2021 年度も本学の取組みに関する効果的な情報発信を目指し、時代に合わせた各種媒体・機会の活用による広報展開のさらなる強化を図った。

本法人ホームページや SNS では、視覚に訴えるべく動画や写真を積極的に活用した。2022 年度に大学に新設されるミュージックビジネス専攻の広報を中心に各専攻・コースの魅力、取り組みを Web 媒体、動画配信などを通じて広く社会にアピールした。

広告においては、ターゲットやエリアを絞った Web 広告を活用するなど、時代に合わせた広報展開を行った。

その他、広報誌・リーフレット・チラシなどの紙媒体の配布、商業施設におけるイベントへの出演、マスメディアへの掲載・発表など各種媒体、機会の活用により、本学の社会的認知度と好感度の向上を図り、ブランド力の強化に努めた。

「大学ブランド力」強化を目的とした広報活動について

●要旨

本学・各専攻・コースの認知度及び好感度の醸成を図る広報活動を通じ、建学の精神及び教育理念等を社会に発信し、本学の存在感を高めブランド力強化に結び付ける。

●成果及び達成度

前年度に引き続き、広報媒体や宣伝機会ごとの特性や長所を活かし多層的な情報発信に努めた。特に、2021年度はデジタル化が進む中で、ニュースリリースを Web 上に配信するなど Web 媒体を積極的に活用し、本法人ホームページへの流入数を伸ばすことができた。また、2022年度開設の大学ミュージックビジネス専攻の広報の効果として、従来以上に幅広い層からの反応があり、歴史と伝統を受け継ぎながら、時代対応した教育を推進する本学の姿勢を広く社会に印象付けることができた。

●今後の展望

様々な機会や広告媒体を活用して、本学の新たな取組及び各専攻・コースや教員の魅力を社会に発信し、創立以来 100 年を超える歴史と伝統の上に新たな大学・短大のブランドを構築し、入試広報にもつなげていくものとする。

【2】施設・設備

計画的な維持保全を実施することにより、施設の省エネ化、老朽化対策を進めた。また、2022年度開設を予定しているミュージックビジネス専攻に対応した従来とは異なる ICT 対応教室等、新たな教育環境の整備に努めた。

既存施設設備のリニューアル工事

●要旨

既存施設設備に対する経年劣化対策を行うことで施設設備の維持保全を図った。また、新専攻開設に向け一部施設設備を全面的にリニューアルし、ICT 対応等、新たな需要に応じた教育環境を整備した。

●成果及び達成度

以下の施設設備における更新工事を実施した。

- ・ A 号館 2 階会議室スライディングウォールの更新
- ・ A 号館照明の LED 化
- ・ B 号館照明の LED 化
- ・ D 号館 3 階フロアの全面改修（ミュージックビジネス専攻向けのリニューアル）
- ・ F 号館 313 教室 ML（Music Laboratory）システムの更新
- ・ F 号館 213 教室のパソコン教室から DAW 教室へのリニューアル
- ・ H 号館屋上防水工事
- ・ H 号館空調設備の更新
- ・ H 号館照明の LED 化
- ・ K 号館 105 教室（DAW 演習室）パソコン更新
- ・ O 号館トイレ全面改修工事
- ・ O 号館照明 LED 化
- ・ P 号館ミレニアムホール舞台床修繕工事
- ・ 付属音楽幼稚園通園バスの更新

●今後の展望

中長期的な保全計画を立てて財政負担の平準化を図りつつ、施設設備の維持保全及び新たな需要を見据えた教育環境の整備に努める。

【3】法人の運営

中期計画に沿った財政再建策を策定した。策定にあたっては、過去 5 ヶ年の決算額の推移並びに 2021 年度決算見込み額をもとに今後想定される事業運営コストの軽減と新専攻設置等による増収予測の両面から推計し、数値目標を設定した。また、新規・特別事業を計画する上での指針とすることで、限られた財源の中、財務の健全性を確保し、永続的な大学運営を可能とする『中期（5 ヶ年）計画の実行～財政収支増収策並びに教育事業への経営資源集中のための事業見直しによるコスト軽減策～』を取りまとめた。また、「ミュージックビジネス専攻（2022 年度開設）」の入学者選抜の結果、想定を大きく上回る新入生を迎えることが確定し、当該専攻専用教室の設置をはじめ教育環境整備についても滞りなく完了した。続く 2023 年度には「ポピュラーエンターテインメント専攻・コース」の開設を計画している。当該専攻・コースは既存の「ヴォーカルパフォーマンス専攻・コース」と「ポピュラーインストゥルメント専攻・コース」を統合し、さらにシンガーソングライター育成を目的とした教育分野を加えることで充実を図る。その中核を担う教員配置にも目途が立ち 2023 年度開設に向け準備に入った。今年度は理事会を 4 回、評議員会を 4 回開催した。理事会において決定した学校法人の業務及び理事長の職務を円滑に遂行するために、常任理事会を 19 回開催し、延べ 140 件の議題を審議した。役員及び役職者等の意思疎通と連絡調整を目的とする執行部連絡協議会を 6 回開催した。今年度の教職員の総数は 627 人（平均年齢 48.7 歳）であった。内訳は、専任教員 53 人〔大学 35 人・短大 18 人（平均年齢 55.4 歳）、付属音楽幼稚園教諭 14 人（平均年齢 31.6 歳）〕、専任職員 73 人（平均年齢 41.0 歳）、非常勤教員 456 人（平均年齢 49.7 歳）、非常勤職員 31 人（平均年齢 48.4 歳）であり、このうち 1 人が専任職員と非常勤教員の兼務者であった。年度中に 42 人（専任教員 2 人、専任教諭 3 人、専任職員 4 人、非常勤教員 28 人、その他 5 人）が退職した。

新専攻開設に向けた事業運営（将来構想計画）

●要旨

ミュージックビジネス専攻の 2022 年度開設に向けて具体的検討を行い、各種準備を円滑に行う。

●成果及び達成度

カリキュラム構築、教員配置、授業内容の確立、教室等の施設準備、学生募集のための広報活動、入学者選抜試験の実施など、主任教員と関係各所が連携をとる形で対応を行い、2022 年度開設に向けた準備を適切に整えた。

●今後の展望

完成年度までの各学年の教員配置、授業展開、教室利用などの具体的検討を行い教育の質の確保を図ると共に、本専攻の一層の充実につながる人材の確保、ブランディング、広報活動などを展開し今後の継続的な学生募集につなげる。

Ⅲ 財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位:千円)

	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
固定資産	17,329,707	16,814,352	16,261,224	15,137,731	14,684,253
流動資産	834,570	605,998	608,269	1,213,610	1,111,017
資産の部合計	18,164,277	17,420,351	16,869,493	16,351,342	15,795,270
固定負債	2,776,351	2,592,928	2,436,645	2,278,230	2,111,718
流動負債	269,140	255,918	257,995	254,897	279,077
負債の部合計	3,045,491	2,848,847	2,694,640	2,533,127	2,390,795
基本金	17,781,667	17,880,179	17,974,228	17,939,597	18,062,494
繰越収支差額	-2,662,881	-3,308,675	-3,799,376	-4,121,383	-4,658,019
純資産の部合計	15,118,785	14,571,504	14,174,852	13,818,215	13,404,475
負債及び純資産の部合計	18,164,276	17,420,351	16,869,493	16,351,342	15,795,270

※四捨五入の関係で計算式と合致しない箇所があります。

イ) 財務比率の経年比較

		2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
固定資産構成比率	固定資産					
	総資産	95.4	96.5	96.4	92.6	93.0
固定資産の総資産に占める構成割合で、流動資産構成比率とともに資産構成のバランスを全体的に見るための指標。						
流動比率	流動資産					
	流動負債	310.1	236.8	235.8	476.1	398.1
流動負債に対する流動資産の割合。学校法人の資金流動性すなわち短期的な支払能力を判断する指標。						
総負債比率	総負債					
	総資産	16.8	16.4	16.0	15.5	15.1
固定負債と流動負債を合計した負債総額の総資産に対する割合で、総資産に対する他人資金の比重を評価する比率。						
前受金保有率	現金預金					
	前受金	712.4	625.2	573.3	1370.0	1052.4
前受金と現金預金との割合で、当該年度に収受している翌年度分の入学金等が、翌年度繰越支払資金たる現金預金の形で当該年度末に適切に保有されているかを測る比率。						
特定資産構成比率	特定資産					
	総資産	30.3	28.5	27.2	25.7	25.1
特定資産の総資産に占める構成割合で、各種引当特定資産などの長期にわたって特定の目的のために保有する金融資産の蓄積状況を評価する指標。						

② 資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:千円)

収入の部	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
学生生徒等納付金収入	2,065,766	2,104,847	2,182,814	2,150,453	2,140,928
手数料収入	17,809	16,791	17,166	16,205	17,763
寄付金収入	36	11,496	11,000	110	0
補助金収入	278,465	302,423	206,354	220,713	251,257
資産売却収入	2,603,488	233,734	103,623	479,927	105,164
付随事業・収益事業収入	164,352	170,519	170,080	111,234	140,642
受取利息・配当金収入	189,024	140,263	108,794	91,696	83,904
雑収入	163,328	207,975	237,479	171,009	218,015
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	92,130	84,880	89,060	82,660	87,270
その他の収入	739,567	854,411	2,178,801	1,104,863	1,234,966
資金収入調整勘定	-378,600	-159,407	-177,209	-157,170	-162,697
前年度繰越支払資金	654,095	656,320	530,632	510,584	1,132,455
収入の部合計	6,589,461	4,624,252	5,658,593	4,782,283	5,249,667

支出の部	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
人件費支出	1,746,912	1,834,563	1,836,605	1,728,513	1,863,241
教育研究経費支出	809,868	674,011	731,694	786,615	817,861
管理経費支出	331,641	334,156	332,065	297,659	283,895
借入金等利息支出	3,664	3,472	6,227	5,701	5,249
借入金等返済支出	59,720	98,220	100,720	98,220	98,220
施設関係支出	232,044	290,847	116,463	85,109	144,612
設備関係支出	79,499	92,934	100,501	42,677	89,237
資産運用支出	2,204,861	292,833	1,416,222	112,990	511,080
その他の支出	514,122	509,511	549,575	533,523	574,155
資金支出調整勘定	-49,190	-36,927	-42,062	-41,179	-56,353
翌年度繰越支払資金	656,320	530,632	510,584	1,132,455	918,470
支出の部合計	6,589,461	4,624,252	5,658,593	4,782,283	5,249,667

※四捨五入の関係で計算式と合致しない箇所があります。

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:千円)

	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	2,654,281	2,779,461	2,824,371	2,641,403	2,760,660
教育活動資金支出計	2,888,421	2,842,730	2,900,364	2,812,786	2,964,997
差引	-234,140	-63,269	-75,993	-171,383	-204,337
調整勘定等	18,536	-58,322	-12,912	45,983	-22,934
教育活動資金収支差額	-215,604	-121,591	-88,904	-125,400	-227,271
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	2,294,056	201,088	520,080	141,343	245,109
施設整備等活動資金支出計	311,543	383,782	566,939	227,786	333,849
差引	1,982,513	-182,694	-46,859	-86,443	-88,740
調整勘定等	-29,175	34,900	0	-35,060	28,871
施設整備等活動資金収支差額	1,953,338	-147,794	-46,859	-121,503	-59,869
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	1,737,734	-269,385	-135,763	-246,903	-287,140
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	1,006,124	1,000,671	1,804,382	1,471,133	1,119,011
その他の活動資金支出計	2,741,633	856,704	1,688,215	601,933	1,046,282
差引	-1,735,509	143,967	116,167	869,200	72,729
調整勘定等	0	-270	-451	-426	426
その他の活動資金収支差額	-1,735,509	143,697	115,716	868,774	73,155
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	2,225	-125,688	-20,047	621,871	-213,985
前年度繰越支払資金	654,095	656,320	530,632	510,584	1,132,455
翌年度繰越支払資金	656,320	530,632	510,584	1,132,455	918,470

ウ) 財務比率の経年比較

	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
教育活動資金	教育活動資金収支差額				
収支差額比率	-8.1	-4.4	-3.1	-4.7	-8.2
教育活動資金収支差額の教育活動収入に占める割合を示し、学校法人における本業である「教育活動」でキャッシュフローが生み出せているかを測る比率。					

③ 事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位:千円)

	科目	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	2,065,766	2,104,847	2,182,814	2,150,453	2,140,928
	手数料	17,809	16,791	17,166	16,205	17,763
	寄付金	424	11,497	11,000	110	1,666
	経常費等補助金	243,025	267,832	205,832	194,078	243,312
	付随事業収入	164,352	170,519	170,080	111,234	140,642
	雑収入	163,329	207,975	237,479	169,323	218,0115
	教育活動収入計	2,654,705	2,779,461	2,824,371	2,641,403	2,762,326
	事業活動支出の部					
	人件費	1,680,999	1,751,860	1,778,542	1,668,317	1,794,949
	教育研究経費	1,098,108	972,436	1,039,590	1,095,964	1,128,192
	管理経費	356,967	357,331	362,154	334,801	319,385
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	3,136,074	3,081,627	3,180,286	3,099,082	3,242,526
	教育活動収支差額	-481,369	-302,166	-355,915	-457,679	-480,200
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	189,024	140,264	108,794	91,696	83,904
	その他の教育活動外収入	0	0	0	1,686	0
	教育活動外収入計	189,024	140,264	108,794	93,381	83,904
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	3,664	3,472	6,227	5,701	5,249
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	3,664	3,472	6,227	5,701	5,249
	教育活動外収支差額	185,360	136,792	102,567	87,680	78,655
	経常収支差額	-296,009	-165,374	-253,348	-369,999	-401,545
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	1,439,327	124,278	37,210	60,229	4,657
	その他の特別収入	36,972	38,367	36,374	34,254	10,894
	特別収入計	1,476,299	162,645	73,584	94,483	15,551
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	808,502	544,552	216,887	80,694	27,745
	その他の特別支出	0	0	0	427	0
	特別支出計	808,502	544,552	216,887	81,121	27,745
	特別収支差額	667,797	-381,907	-143,303	13,361	-12,194
	基本金組入前当年度収支差額	371,788	-547,282	-396,651	-356,638	-413,739
	基本金組入額合計	0	-98,512	-94,049	0	-122,897
	当年度収支差額	371,788	-645,794	-490,701	-356,638	-536,636
	前年度繰越収支差額	-3,823,758	-2,662,882	-3,308,675	-3,799,376	-4,121,383
	基本金取崩額	789,088	0	0	34,631	0
	翌年度繰越収支差額	-2,662,882	-3,308,675	-3,799,376	-4,121,383	-4,658,019
(参考)						
	事業活動収入計	4,320,028	3,082,369	3,006,749	2,829,267	2,861,781
	事業活動支出計	3,948,240	3,629,651	3,403,400	3,185,905	3,275,520

※四捨五入の関係で計算式と合致しない箇所があります。

イ)財務比率の経年比較

		2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 経常収入	72.6	72.1	74.4	78.6	75.2
学生生徒等納付金の経常収入に占める割合。学生生徒等納付金は、学生生徒等の増減並びに納付金の水準の高低の影響を受けるが、学校法人の帰属収入の中で最大の割合を占めており、補助金や寄付金と比べて外部要因に影響されることが少ない重要な自己財源であることから、この比率が安定的に推移することが望ましい。						
人件費比率	人件費 経常収入	59.1	60.0	60.6	61.0	63.1
人件費の経常収入に占める割合。						
教育研究経費比率	教育研究経費 経常収入	38.6	33.3	35.4	40.0	39.6
教育研究経費の経常収入に占める割合。教育研究経費には消耗品費、光熱水費、旅費交通費、委託費、修繕費等の各種支出に加え教育研究用固定資産に係る減価償却額が含まれている。						
管理経費比率	管理経費 経常収入	12.6	12.2	12.3	12.2	11.2
経常収入に対する管理経費の占める割合。管理経費は教育研究活動以外の目的で支出される経費であり、学校法人の運営のため、ある程度の支出は止むを得ないものの、比率としては低い方が望ましい。						
補助金比率	補助金 事業活動収入	6.4	9.8	6.9	7.8	8.8
国又は地方公共団体の補助金の事業活動収入に占める割合。 補助金:経常費等補助金＋施設設備補助金						

(2) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

資金収入の合計は 5,249,667 千円で、主な科目の内訳は、学生生徒等納付金収入 2,140,928 千円、補助金収入 251,257 千円、付随事業・収益事業収入 140,642 千円、前受金収入 87,270 千円である。資金支出の合計は 5,249,667 千円で、主な科目の内訳は、人件費支出 1,863,241 千円、教育研究経費支出 817,861 千円、管理経費支出 283,895 千円、資産運用支出 511,080 千円である。2021 年度の翌年度繰越支払資金は 918,470 千円となり、前年度繰越支払資金より 213,985 千円減少した。

教育活動収入計は本業である教育活動に係る収入で、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、経常費等補助金、付随事業収入、雑収入の合計で 2,762,326 千円であり、学生生徒等納付金比率は 75.2 パーセントとなる。教育活動支出計は人件費（退職給与引当金繰入額を含む）、教育研究経費（減価償却額を含む）、管理経費（減価償却額を含む）等の合計で、3,242,526 千円であり、人件費比率は 63.1 パーセントとなる。教育活動支出計が教育活動収入計を上回った結果、教育活動収支差額が 480,200 千円の支出超過、教育活動外収支差額は 78,655 千円の収入超過、経常収支差額は 401,545 千円の支出超過となった。特別収支差額は 12,194 千円の支出超過となり、基本金組入前当年度収支差額は 413,739 千円の支出超過となった。基本金組入額は 122,897 千円となり、前年度までの支出超過累積額 4,121,383 千円を差し引きし、翌年度繰越収支差額は 4,658,019 千円の支出超過となった。

貸借対照表上の 2022 年 3 月 31 日における財政状態は、資産 15,795 百万円、負債 2,391 百万円となっている。

(詳細については 2021 年度決算説明をご参照ください。)

クラシック音楽の実技指導を中心とする専攻については志願者の減少傾向が依然継続している。このため、「クラ

シック系」に偏重してきた収益体制を、「クラシック系」と「ポピュラー系・演習系」に教育課程を区分し、収益構造の転換を図るべく、2018年度から積極的な取り組みを行ってきた。その成果として「ポピュラー系・演習系」においては安定的な学生数を確保することが可能となり、減少する「クラシック系」の学生数を補うまでに成長した。しかしながら、収支均衡には未だ至っておらず、新たな成長戦略による収入確保が喫緊の課題となっている。この課題解決には、「ポピュラー系・演習系」の教育分野をさらに拡充し、新たな志願者層の開拓が必要と考えられるが、2022年度には新専攻として「ミュージックビジネス専攻」の開設を予定している。そのため、2021年度予算は当該専攻に係る施設・設備の充実に多額の予算を計上することになったが、中期的な収支均衡に向けた開始年度ともいえる。

▼2021年度 法人の動き

日付	内容	場所
4月1日	キャリア支援(進路・就職)に関する新入生保護者対象ガイダンス	ザ・カレッジ・オペラハウス
4月5日	音楽幼稚園 第54回入園式	音楽幼稚園
4月5日	教員採用試験説明会【豊能地区】	キャリア支援センター
4月5日	教員採用試験説明会【大阪府】	キャリア支援センター
4月8日	企業採用説明会【カプコン】	LIVE配信
4月9日	教員採用試験説明会【堺市】	キャリア支援センター
4月10日	常翔学園・大阪音楽大学 連携協定記念プロジェクト 「常翔ロビー・コンサート」[他 7/10、8/7、9/4、10/9、11/6、12/11、1/8、2/26]	常翔ホール
4月15日	カワイ音楽教室 講師採用説明会	A号館305教室
4月19日	教員採用試験説明会【大阪市】	LIVE配信
4月20日	教員採用試験説明会【神戸市】	LIVE配信
4月21日	陸上自衛隊中部方面音楽隊採用説明会	O号館201教室
4月24日	豊能地区教員採用試験対策_Zoom座談会 卒業生を迎えて	LIVE配信
4月26日	大学3年生対象 卒業後のための進路ガイダンス	WEB配信 (～5/31)
4月26日	教授会①	会議室
4月28日	《中止》神戸市消防音楽隊採用説明会	-
4月30日	GW企画「小学校音楽専科の先生」 卒業生(3人)を迎えて	LIVE配信
5月1日	就職ナビサイト一括登録動画配信(リクナビ・マイナビ・あさがく・ディスコ)	WEB配信 (～7/31)
5月7日	《中止》堺市消防音楽隊説明会	-
5月17日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー①「就活スタートダッシュ」(マイナビ主催)	LIVE配信
5月18日	英会話講座(計10回) [他 5/25、6/1、6/8、6/15、6/22、6/29、7/6、7/13、7/20]	LIVE配信
5月24日	カワイ音楽教室 音楽系スタッフ&ピアノ講師採用説明会	LIVE配信
5月24日	教授会②	会議室
5月26日	中村恵理氏 声楽特別講義	F号館434教室
5月28日	ヤマハミュージックレッスン セミナー(※コラボレート・スタディ内 他専攻生聴講可)	K号館507教室
5月28日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー②「SPI性格検査」(リクナビ主催)	LIVE配信
5月29日	《中止》合唱フェスティバル	-
5月30日	《中止》吹奏楽フェスティバル	-
5月31日	「内定獲得のためのセミナー」(あさがく主催)	LIVE配信
6月2日	教職員定期健康診断(6/2、6/3、6/4)	
6月3日	ヤマハ音楽能力検定 ピアノ演奏グレード5級取得準備講座(計4回) [他 6/10、6/17、6/24]	B号館205教室
6月6日	トライアルレッスン	第1キャンパス他
6月7日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー③「業界研究」(あさがく主催)	B号館102教室
6月8日	第67回ミレニアム・スチューデント・コンサート第1夜 [他第67回第2夜6/10、第68回第1夜6/11、第2夜6/29]	ミレニアムホール
6月9日	東京ランチ活用ガイダンス	B号館402教室
6月11日	MIRAIカフェ①音楽教室講師編 「ヤマハシステム講師(大学ピアノ卒)を迎えて」	キャリア支援センター
6月16日	MIRAIカフェ②企業編「ジャトー株式会社 卒業生(大学ピアノ卒)を迎えて」	キャリア支援センター
6月18日	原田夏樹氏 ポピュラー特別講義	K号館507教室

▼2021年度 法人の動き

日付	内容	場所
6月22日	合同会社ユーエスジェイ 採用説明会	K号館606教室
6月23日	宮川彬良氏 吹奏楽特別講義	O号館101教室
6月26日	Polaris Concert ～木村綾子先生 永遠に～	ザ・カレッジ・オペラハウス
6月28日	教授会③ 終了後 FDフォーラム	会議室
6月28日	豊中市「サウンドスクール事業」豊中市立庄内小学校 (他、6月～3月まで、こども園11件、小学校20件、中学校3件)	豊中市内こども園、 小学校・中学校
7月4日	トライアルレッスン	第1キャンパス他
7月7日	陸上自衛隊中部方面音楽隊(声楽)採用説明会	O号館201教室
7月7日	AILI氏 ポピュラー特別講義	K号館507教室
7月8日	音大生の就活攻略講座(ミュージカリー主催)	B号館206教室
7月9日	イリーナ・メジューエワ客員教授 ピアノ特別講義	F号館434教室
7月16日	And Vision主催 音楽留学セミナー	LIVE配信
7月16日	大阪音楽大学管弦楽団サマー・コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
7月18日	オープンキャンパス(作曲デザイン)	第2キャンパス他
7月19日	MIRAIカフェ③ 教員編「付属幼稚園 保育助手(大学管楽器卒)を迎えて」	キャリア支援センター
7月19日	教授会④ 終了後 FDフォーラム	会議室
7月22日	オープンキャンパス	第1キャンパス他
7月29日	ヨズア・バルチュ氏 声楽特別講義	A号館303教室
7月30日	教員採用試験 実技・面接対策講座(模擬授業、リコーダー、ピアノ弾き歌い) [他 8/3・5・6・10・11・12・16・17・23・24・25・26、9/1・7・11] (計16日間)	A号館414教室ほか
8月1日	オペラセミナー(8/1、8/2、8/3)	ミレニアムホール
8月2日	夏期講習会(8/2、8/3、8/4)	第1キャンパス他
8月4日	教員免許状更新講習(指揮法・雅楽・合唱・リコーダー・打楽器・日本伝統音楽・合唱) [他 8/5・6・19・24・25・26]	O号館201教室ほか
8月5日	音楽基礎科目認定テスト	第1キャンパス他
8月6日	夏の特別企画「小学校音楽専科の先生」 新任卒業生を迎えて ※4/30のフォローアップ	LIVE配信
8月28日	《中止》ポピュラーミュージックフェスティバル	-
8月29日	前期実技試験および進学実技適性テスト(音楽院区分)	第2キャンパス
8月29日	進学実技適性テスト(音楽院)	第2キャンパス
9月5日	進学実技適性テスト	第1キャンパス他
9月8日	庄内小学校音楽隊ボランティアオリエンテーション	B号館102教室
9月9日	カワイピアノグレード6級 学内認定特別講習	F号館109教室
9月10日	大学3年次編入推薦・短大専攻科特別入学選抜	第1キャンパス他
9月14日	保育士資格試験対策講座ガイダンス	B号館206教室
9月14日	奥村綾子氏・鶴田さくら氏 ミュージッククリエーション特別講義	A号館301教室
9月15日	短大1年生対象 卒業後のための進路ガイダンス	WEB配信 (～10/8)
9月16日	ヤマハ吹奏楽団採用説明会	LIVE配信
9月16日	ヤマハ音楽能力検定 指導グレード5級トライアル講座	B号館205教室
9月18日	大阪成蹊学園・大阪音楽大学 連携協定事業[他 10/30]	大阪成蹊女子高校 大阪音楽大学
9月21日	綿貫正顕教員 ミュージッククリエーション特別講義	A号館301教室

▼2021年度 法人の動き

日付	内容	場所
9月25日	大学院入学者選抜前期日程(9/25、9/26)	第1キャンパス他
9月27日	教授会⑤	会議室
9月28日	保育士資格対策講座(計16回) [他 10/5・12・19・26、11/2・9・16・30、12/7・14・21、1/18・25、2/1*、2/8*]	B号館205教室
10月3日	オープンキャンパス	第1キャンパス他
10月5日	機関別認証評価 実地調査(オンライン) (10/5、10/6、10/7)	
10月6日	音楽教室起業セミナー ～教えるを仕事にするために～	B号館101教室
10月7日	ヤマハ音楽能力検定 指導グレード5級取得準備講座 [他 10/14・21・28、11/4・11・18] (計7回)	B号館205教室
10月8日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー④「就活Re:スタート」(マイナビ主催)	A号館305教室
10月9日	音楽幼稚園 第55回運動会	音楽幼稚園
10月13日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー⑤「SPI性格検査」(リクナビ主催)	F号館212教室
10月14日	SINXITY ミュージックコミュニケーション特別講義	D号館101教室
10月15日	創立記念日	
10月16日	上野星矢フルトリサイタル	ザ・カレッジ・オペラハウス
10月18日	MIRAIカフェ④ 演奏活動編 「STAND UP! Orchestraメンバー (大学弦楽器専攻卒)を迎えて」	キャリア支援センター
10月20日	第69回ミレニアム・スチューデント・コンサート第1夜 [他 第69回第2夜10/22、第70回第1夜11/15、第2夜11/17]	ミレニアムホール
10月21日	福川伸陽氏 ホルン特別講義	O号館101教室
10月22日	第41回(春期)インターンシップ説明会	B号館101教室
10月23日	オペラ物知り講座(カレッジ・オペラ講座2021)	ミレニアムホール
10月23日	大学・短大 総合型選抜(10/23、10/24)	第1キャンパス他
10月25日	ヤマハミュージックレッスン講師採用説明会《2022年度春募集》	キャリア支援センター
10月25日	呉信一氏 トロンボーン特別講義	O号館101教室
10月25日	教授会⑥	会議室
10月25日	ピエール・モンティ氏 作曲特別講義	P号館107教室
10月27日	東京ブランチャセミナー(音楽・エンタメ業界の企業紹介と東京の生活検証)	B号館401教室
10月27日	ピエール・モンティ氏 作曲特別講義	P号館107教室
10月29日	教職STUDY!「講師登録って何？」	LIVE配信
10月29日	ヤマハミュージックレッスン セミナー (※コラボレート・スタディ内 他専攻生聴講可)	K号館507教室
10月29日	けやきの森市民大学 大阪音楽大学公開講座「音楽の宝宝箱」 [他 11/5、11/19、11/26]	高槻市生涯学習センター
10月30日	キャリア支援(進路・就職)に関する保護者対象 説明会	WEB配信 (～11/14)
11月1日	教職STUDY!「講師登録って何？」	LIVE配信
11月1日	ピエール・モンティ氏 作曲特別講義	P号館107教室
11月1日	ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団 第59回定期演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
11月2日	豊中市/高槻市教育委員会による合同講師登録説明会	キャリア支援センター
11月5日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー⑥「業界研究」(あさがく主催)	B号館101教室
11月9日	大阪音楽大学開放講座「音楽・心の旅」	豊中市立中央公民館
11月10日	就職個別相談会《予約制》(新卒エージェントdoda主催)	学務応接室A
11月12日	第33回ザ・コンチェルト・コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス

▼2021年度 法人の動き

日付	内容	場所
11月17日	AILI氏 ポピュラー特別講義	K号館507教室
11月19日	第44回邦楽演奏会	ミレニアムホール
11月22日	教授会⑦	会議室
11月24日	イリーナ・メジャーエワ客員教授 ピアノ特別講義	F号館112教室
11月24日	鈴木央紹特任准教授 ジャズ特別講義	K号館404教室
11月24日	大阪音楽大学大学院定期演奏会2021	ザ・カレッジ・オペラハウス
11月26日	MIRAIカフェ⑤ 音楽系企業編 「YAMAHAエレクトーンデモンストレーター（短大電子オルガンコース卒）を迎えて」	キャリア支援センター
11月27日	関西学院グリークラブ・宝塚音楽学校・大阪音楽大学ドリームコーラスコンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
11月28日	大学・短大 学校推薦型選抜(11/28、11/29)	第1キャンパス他
11月30日	音楽教室講師採用説明会【三木楽器音楽教室編】	A号館303教室
12月3日	大阪音楽大学第64回定期演奏会	ザ・シンフォニーホール
12月4日	音楽幼稚園 作品展「キッズ・ミュージアム」	音楽幼稚園
12月5日	管楽器アンサンブルクリニック／トライアルレッスン&個別進学相談会	第2キャンパス他
12月9日	教員採用試験対策ガイダンス（協同出版）	B号館205教室
12月9日	阿部望氏 打楽器特別講義	O号館101教室
12月13日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー⑦「面接対策」（マイナビ主催）	B号館102教室
12月13日	イリーナ・メジャーエワ客員教授 ピアノ特別講義	ミレニアムホール
12月17日	教職STUDY! 「きかせて、先輩先生」（大4P）	LIVE配信
12月20日	一般社会人のためのオペラ講座（カレッジ・オペラ講座2021）	第1キャンパス、ザ・カレッジ・オペラハウス
12月20日	教職STUDY! 「きかせて、先輩先生」（大4C1）	LIVE配信
12月20日	教授会⑧	会議室
12月21日	MIRAIカフェ⑥ 進路決定&内定者編 「神戸市職員（大4Co）・堺市職員（大4Co）を迎えて」	キャリア支援センター
12月22日	教員採用試験説明会【豊能地区】	キャリア支援センター
12月22日	教員採用試験説明会【堺市】	キャリア支援センター
12月23日	村上健氏 ミュージッククリエーション特別講義	A号館301教室
12月23日	第1回NEXT DESIGN ～作曲デザイン・コース・コンサート～	ザ・カレッジ・オペラハウス
12月24日	冬期講習会(12/24～12/25)	第1キャンパス他
12月27日	音楽基礎科目認定テスト	第1キャンパス他
1月17日	教員採用試験説明会【大阪府】	B号館206教室
1月23日	大阪音楽大学第30回電子オルガン・コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
1月24日	教授会⑨	会議室
1月26日	ヤマハ音楽教室講師採用説明会《2023年度募集》	A号館305教室
1月28日	ヨズア・バルチュ氏 声楽特別講義	A号館303教室
2月4日	大学・短大 一般選抜(2/4～2/7)	第1キャンパス他
2月9日	就活メイク講座	F号館215教室
2月9日	証明写真撮影会	ばうぜ特別室
2月10日	And Vision主催 音楽留学セミナー	B号館101教室

▼2021年度 法人の動き

日付	内容	場所
2月10日	一流ホテルの採用担当者が教える内定のとり方～音大生の強みを生かして～ 「ウェスティンホテル 卒業生(大学・声楽卒)を迎えて」	B号館101教室
2月10日	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部 ジャズ・コンサート	常翔ホール
2月12日	第33回大阪音楽大学学生オペラ「ドン・ジョヴァンニ」第1日 [他 第2日2/13]	ザ・カレッジ・オペラハウス
2月14日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー⑧「就活直前」(リクナビ主催)	B号館102教室
2月15日	教員採用試験 筆記試験対策 教職教養対策講座(計10回) [他 2/21・22・25]	B号館102教室
2月16日	大学3年次編入一般・短大専攻科・大学専攻科入学者選抜(2/16、2/17、2/18)	第1キャンパス他
2月19日	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部 ポピュラー・ミュージック・コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
2月20日	JO&TCOHJC定期演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
2月20日	音楽院 器楽合同発表会 [他2/26]	ミレニアムホール
2月21日	教授会⑩	会議室
2月22日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー⑨「模擬面接①」(マイナビ主催)	B号館102教室
2月24日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー⑩「模擬面接②」(あさがく主催)	B号館102教室
2月25日	東京ランチセミナー(音楽・エンタメ業界の就活スタートダッシュ)	B号館101教室
2月26日	音楽幼稚園 発表会「たのしみまショー」	ザ・カレッジ・オペラハウス
2月27日	音楽院 声楽合同発表会 [他3/6、3/13]	ミレニアムホール
2月28日	卒業後の進路を考えよう～学生時代の過ごし方～(リクナビ主催)	B号館102教室
2月28日	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部 第19回ザ・ストリング・コンサート	常翔ホール
3月4日	大学院入学者選抜後期日程(3/4、3/5)	第1キャンパス他
3月5日	大阪音楽大学第53回吹奏楽演奏会	ザ・シンフォニーホール
3月6日	音楽院 オルガンコンサート	K号館301教室
3月8日	「音大生の就活の秘訣！ESの書き方だけでスタートダッシュが変わる」(ミュージカリ主催)	LIVE配信
3月11日	【2022年度実施】教員採用試験 面接対策講座	B号館102教室
3月12日	大阪音楽大学短期大学部ミュージカル・コース DAIONミュージカル第11回公演①②[他③④3/13、⑤3/14]	ザ・カレッジ・オペラハウス
3月15日	【2022年度実施】教員採用試験 実技対策講座(ピアノ弾き歌い)	B号館102教室
3月16日	教職STUDY!!「教採の邦楽についてみんなで学ぼう」	F号館110教室
3月16日	2021年度卒業演奏会(大阪音楽大学短期大学部)	ザ・カレッジ・オペラハウス
3月16日	2021年度卒業演奏会(大阪音楽大学・第1日) [他 第2日3/17、第3日3/18]	ザ・カレッジ・オペラハウス
3月17日	大学・短大 後期総合型選抜	第1キャンパス他
3月19日	音楽幼稚園 第55回卒園式	音楽幼稚園
3月19日	音楽院 ピアノアンサンブルコンサート	ミレニアムホール
3月19日	音楽基礎科目認定テスト	第1キャンパス他
3月20日	音楽院 ミュージックカーニバル [他3/21、3/26]	ミレニアムホール
3月20日	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部 ジュニア吹奏楽団演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
3月22日	(株)カプコン サウンド職オンラインセミナー「カプコンサウンドの創り方」	LIVE配信
3月27日	オープンキャンパス	第1キャンパス他
3月28日	教授会⑪	会議室
3月29日	音楽院 進学コース後期実技試験・修了コンサート	ミレニアムホール